

## 10. 調査関連

この章では、これまでの学勢調査で継続して調査してきた項目の比較、学勢調査 2012 の結果で作成したクロスデータ、学勢調査そのものに対する意見を掲載します。グラフ名に（2008～2012）と書かれているグラフは 2008 年から 2012 年までの比較、（2012）と書かれているグラフは 2012 年の調査で得た結果のクロスデータです。

### 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 10. 調査関連.....                | 1  |
| 10.1 生活基盤の変化について.....        | 1  |
| 10.1.1 生活環境.....             | 1  |
| 10.1.2 食生活.....              | 4  |
| 10.1.3 時間の使い方.....           | 7  |
| 10.1.4 アルバイト.....            | 10 |
| 10.2 学習状況について.....           | 16 |
| 10.2.1 大学への意識.....           | 16 |
| 10.2.2 講義に対する姿勢.....         | 18 |
| 10.2.3 学修時間.....             | 19 |
| 10.3 学勢調査に対して.....           | 29 |
| 10.3.1 回答率について.....          | 29 |
| 10.3.2 層ごとの回答率について.....      | 30 |
| 10.3.3 回答者の傾向の変化.....        | 31 |
| 10.3.4 学勢調査 2012 に対する意見..... | 33 |

### 10.1 生活基盤の変化について

#### 10.1.1 生活環境

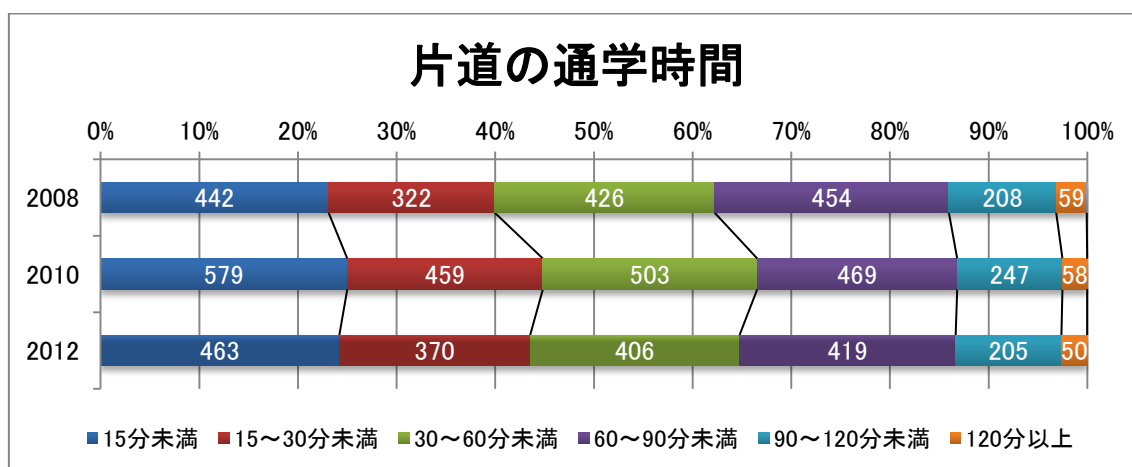


図 10.1.1-1 片道の通学時間 (2008～2012)



## 10. 調査関連

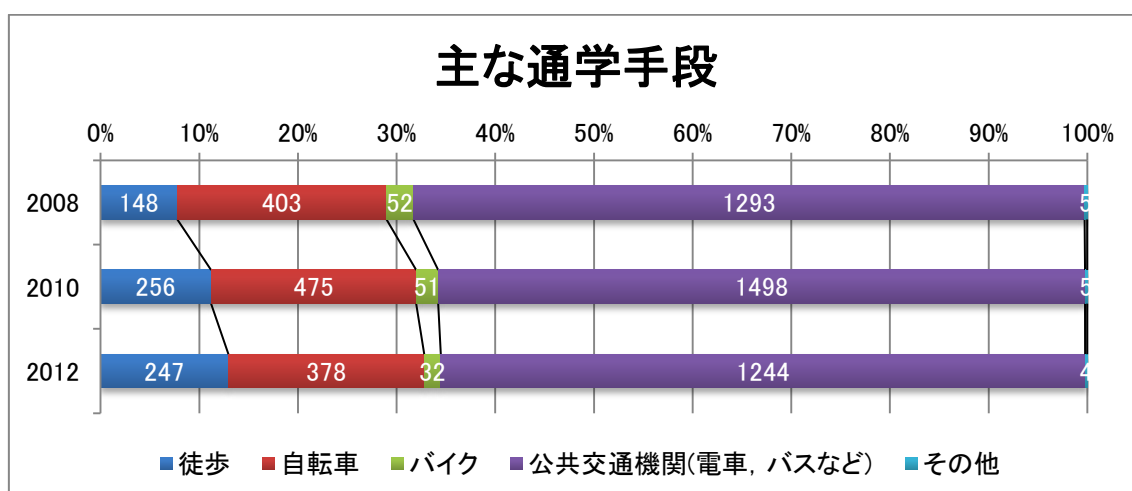


図 10. 1. 1-2 主な通学手段 (2008～2012)

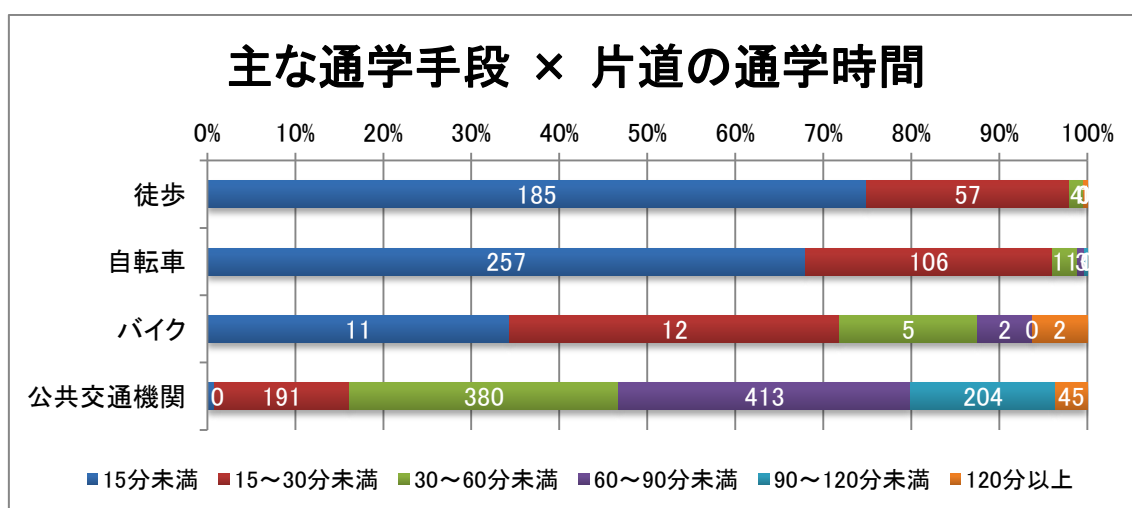


図 10. 1. 1-3 主な通学手段×片道の通学時間 (2012)

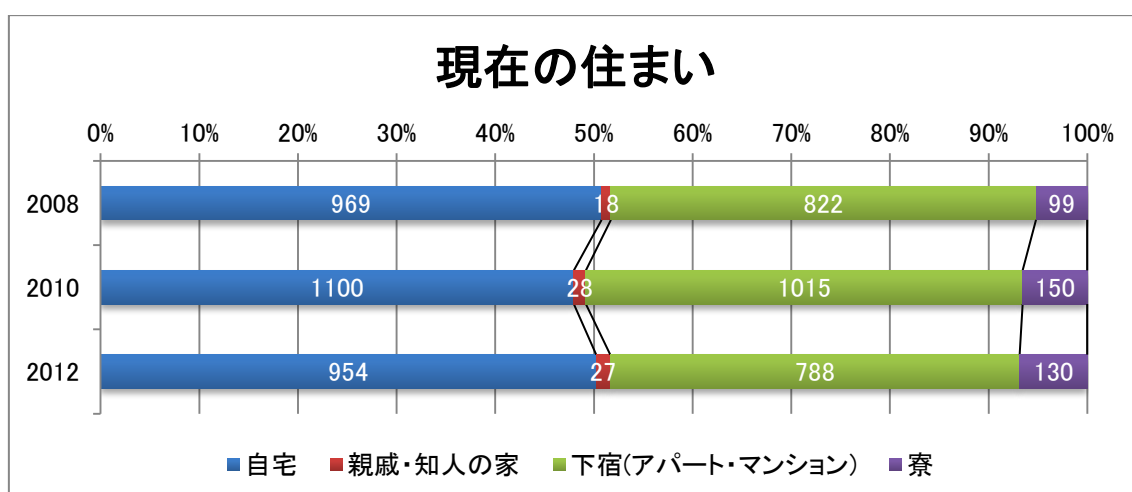


図 10. 1. 1-4 現在の住まい (2008～2012)



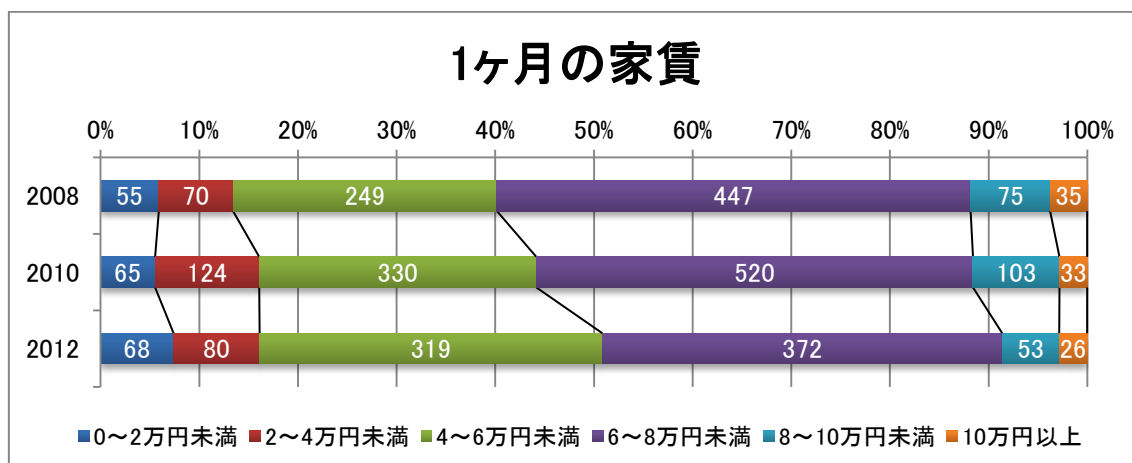


図 10.1.1-5 1ヶ月の家賃(2008~2012)

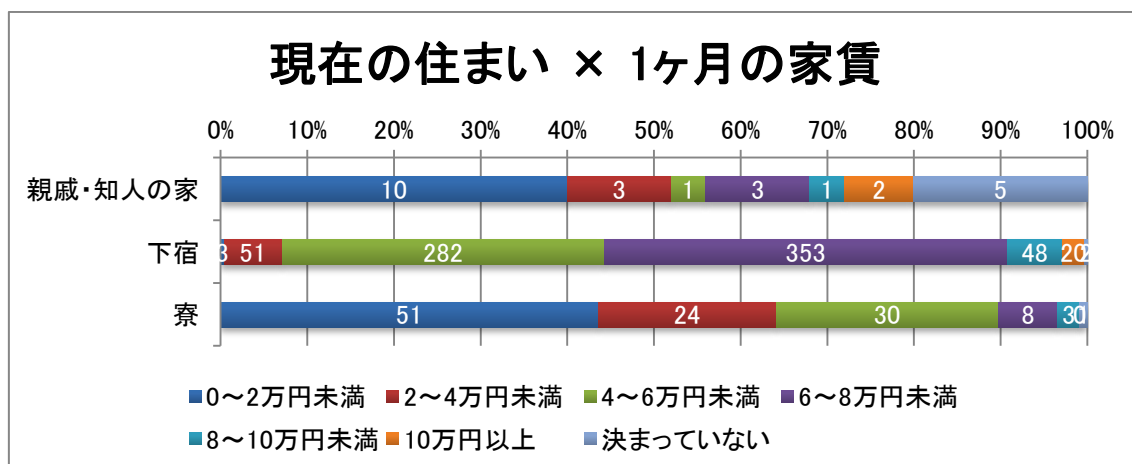


図 10.1.1-6 現在の住まい×1ヶ月の家賃(2012)

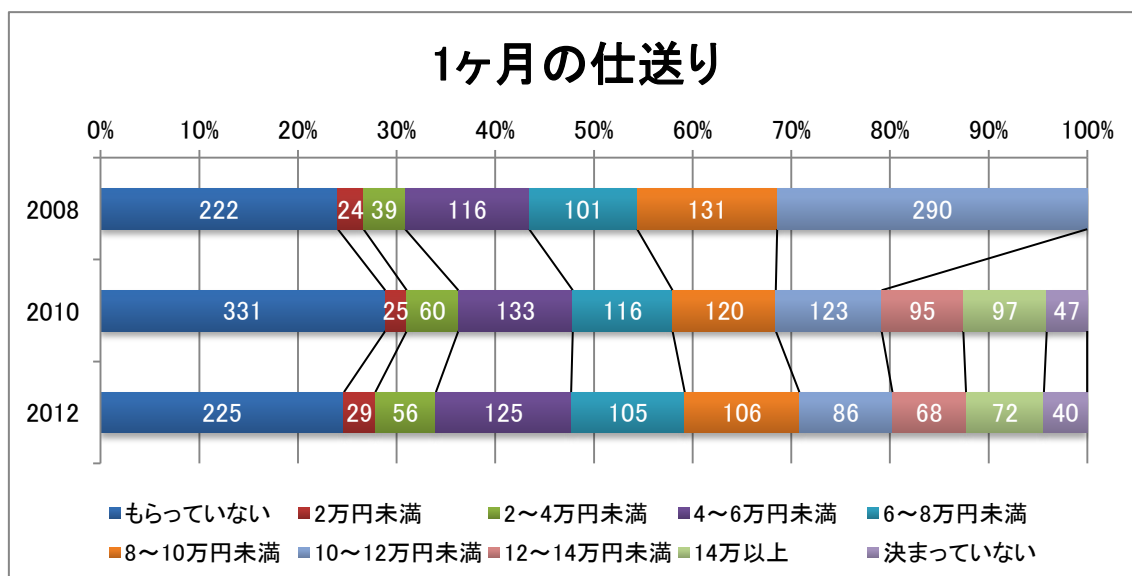


図 10.1.1-7 1ヶ月の仕送り(2008~2012)

※学勢調査 2008 では 10 万円以上は区分なし



## 10. 調査関連

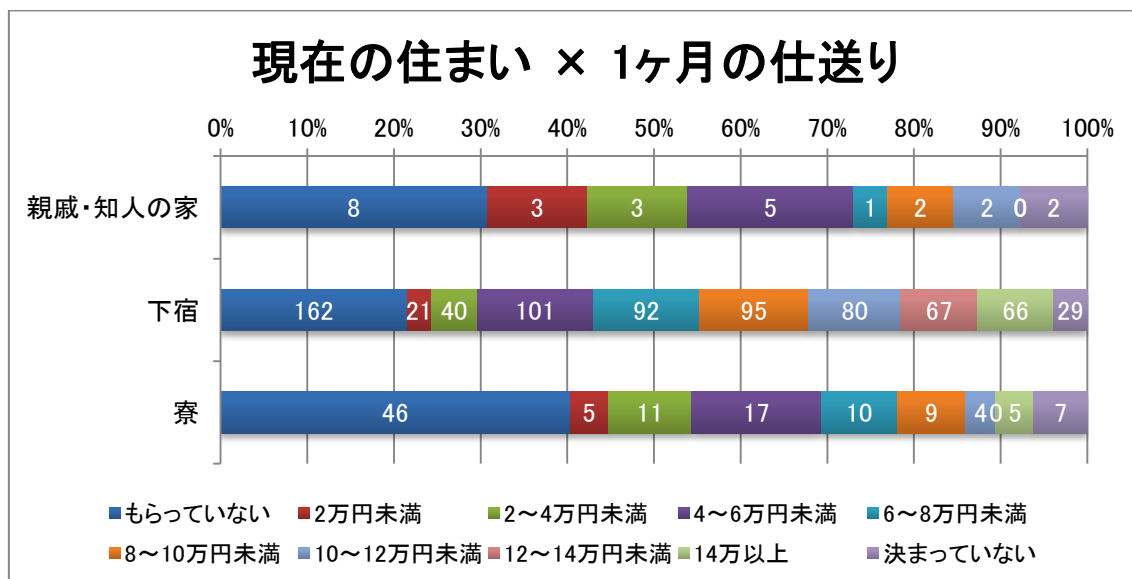


図 10. 1. 1-8 現在の住まい×1ヶ月の仕送り (2012)

## 10. 1. 2 食生活

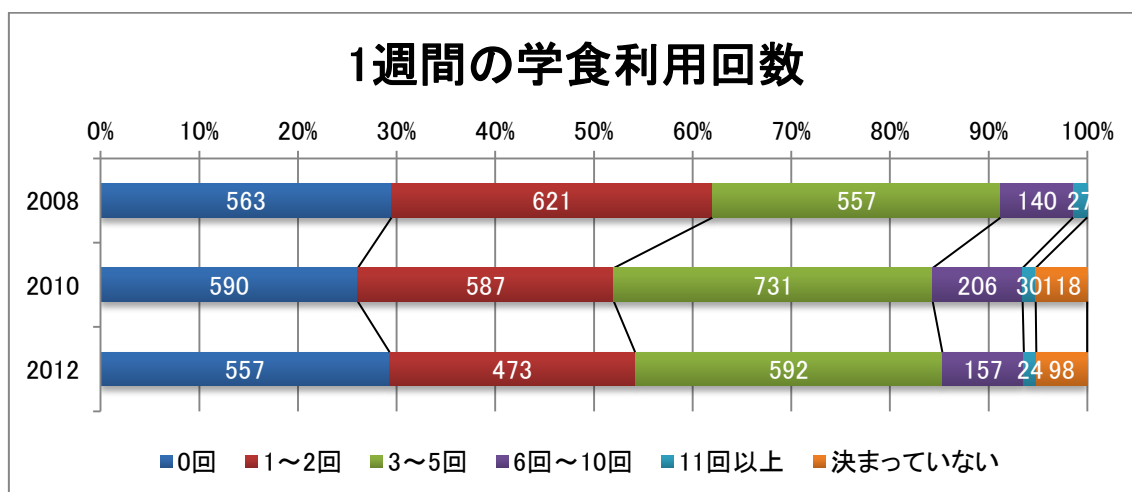


図 10. 1. 2-1 1週間の学食利用回数 (2008～2012)

※学勢調査 2008 では「決まっている」の選択肢はなし



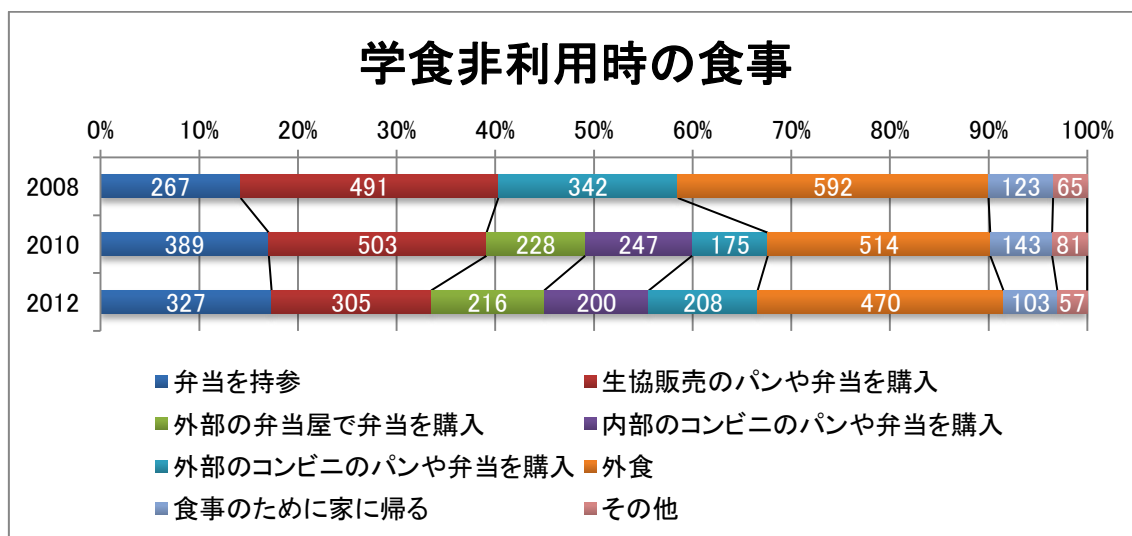


図 10.1.2-2 学食非利用時の食事(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「コンビニなどのパンや弁当を購入」の回答が 342 人

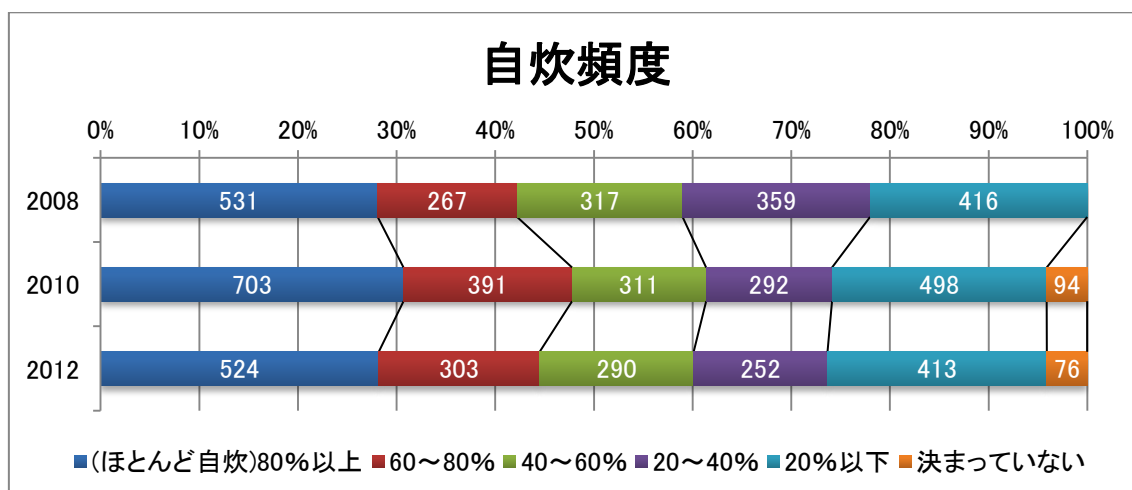


図 10.1.2-3 自炊頻度(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「決まっていない」の選択肢はなし



10. 調査関連

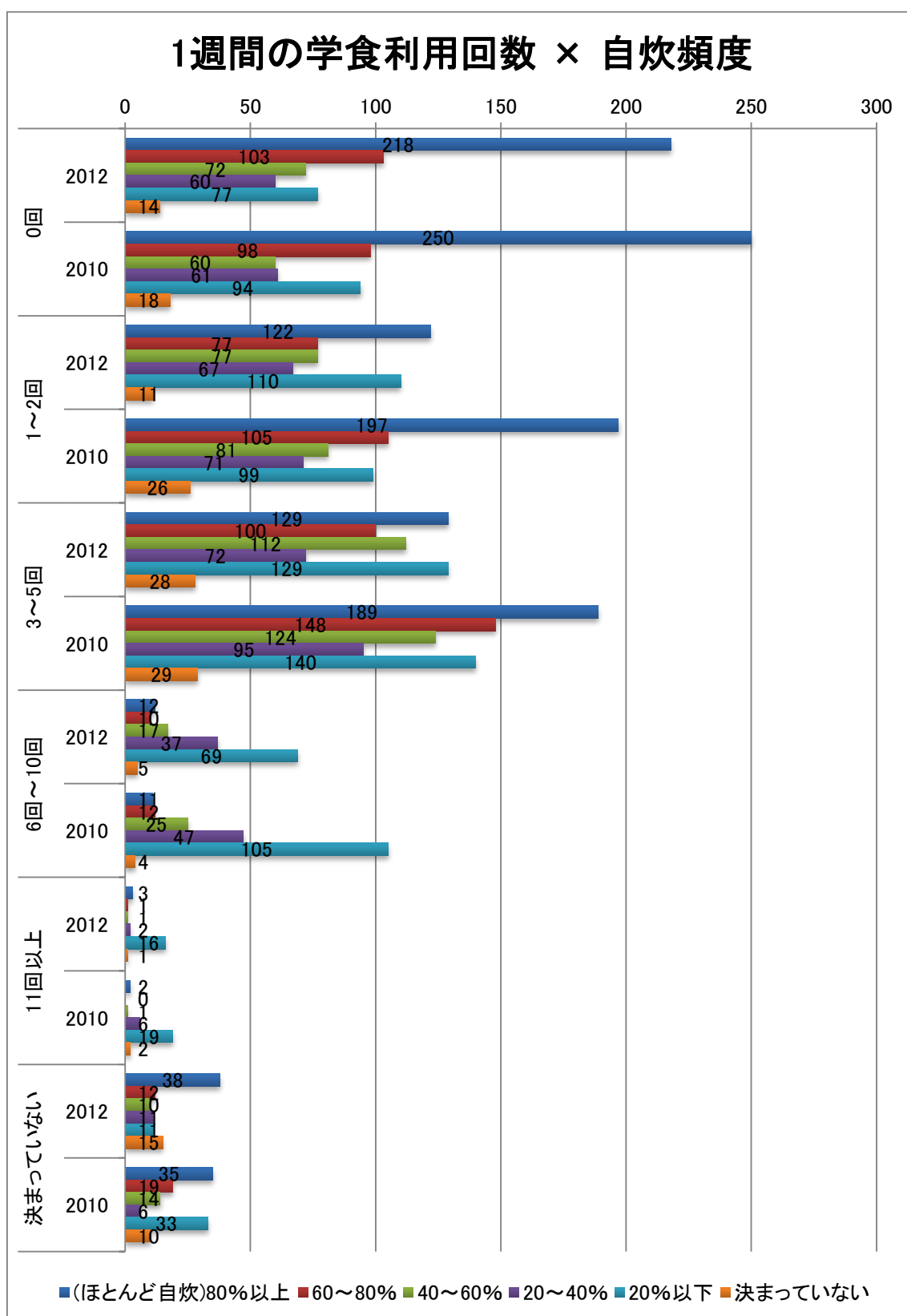


図 10. 1. 2-4 1 週間の学食利用回数 × 自炊頻度 (2012 と 2010 比較)



### 10.1.3 時間の使い方

平日の平均的な時間の使い方

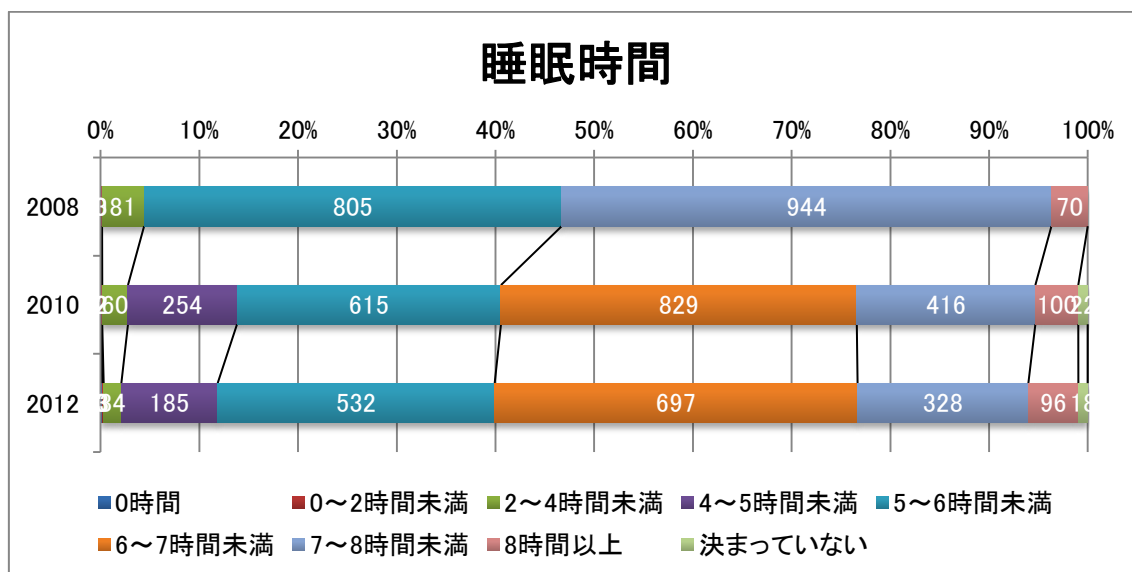


図 10.1.3-1 睡眠時間(2008～2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0～2 時間」「2～4 時間」「4～6 時間」「6～8 時間」「8 時間以上」の 6 種類

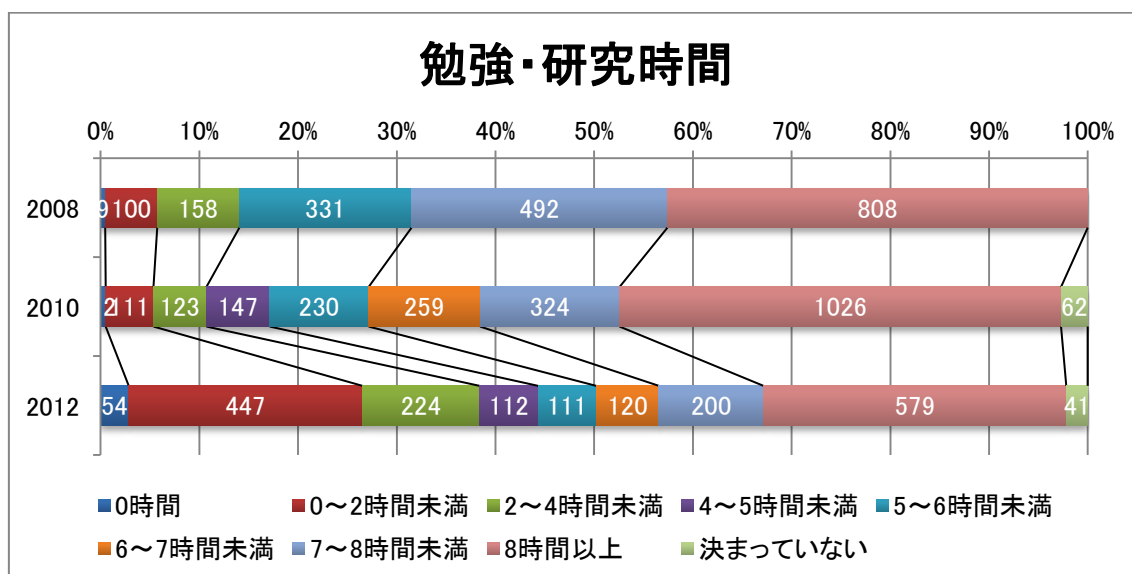


図 10.1.3-2 勉強・研究時間(2008～2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0～2 時間」「2～4 時間」「4～6 時間」「6～8 時間」「8 時間以上」の 6 種類。学勢調査 2012 では質問に「講義の時間は除く」の注釈追加



## 10. 調査関連

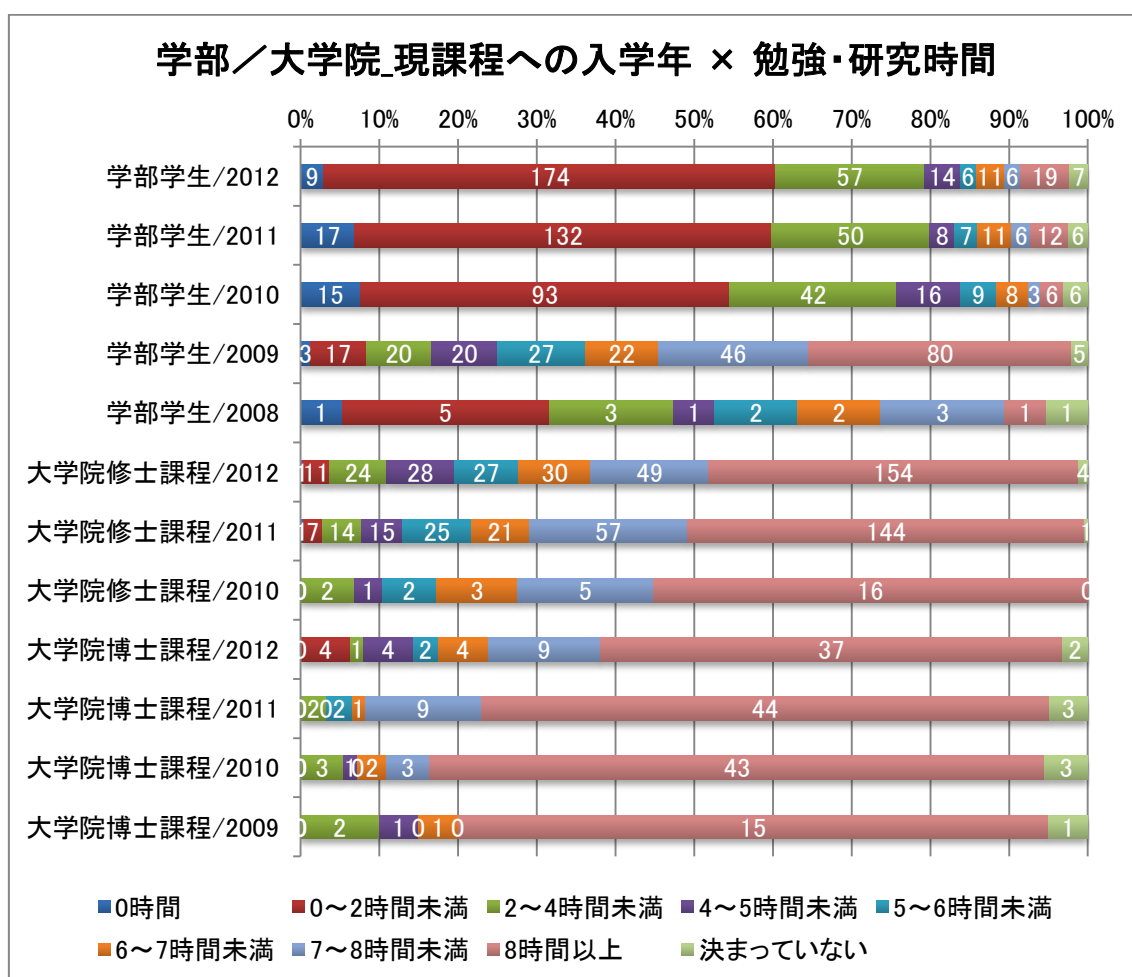


図 10. 1. 3-3 課程\_現課程への入学年×勉強・研究時間(2012)

※この設問での「勉強・研究時間」には講義の時間を含まない

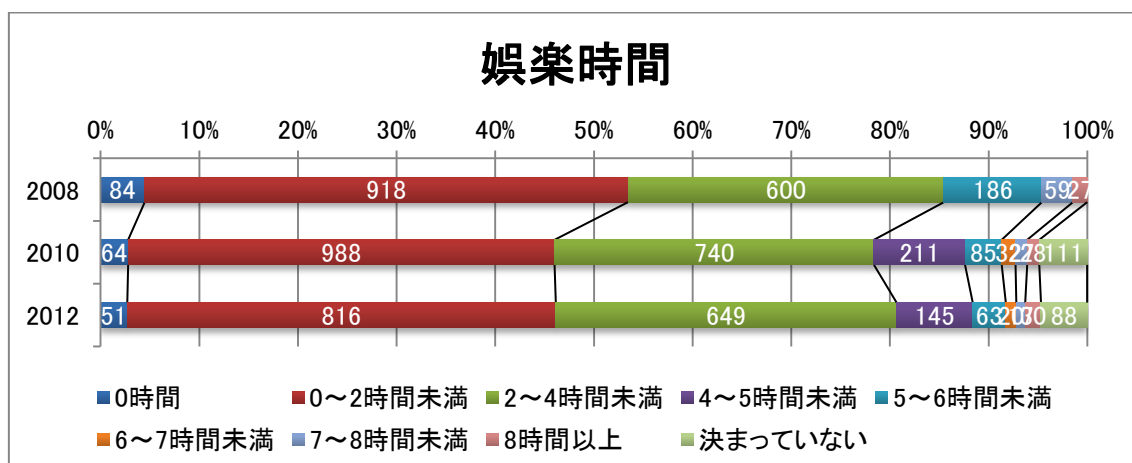


図 10. 1. 3-4 娯楽時間(2008~2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0~2 時間」「2~4 時間」「4~6 時間」「6~8 時間」「8 時間以上」の 6 種類





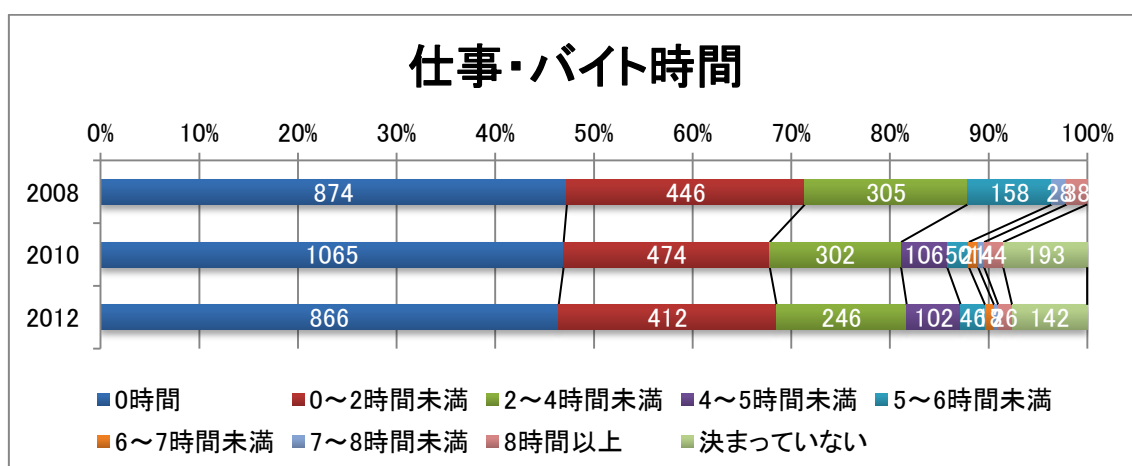


図 10.1.3-5 仕事・バイト時間(2008~2012)

※学勢調査 2008 の選択肢は「0 時間」「0~2 時間」「2~4 時間」「4~6 時間」「6~8 時間」「8 時間以上」の 6 種類

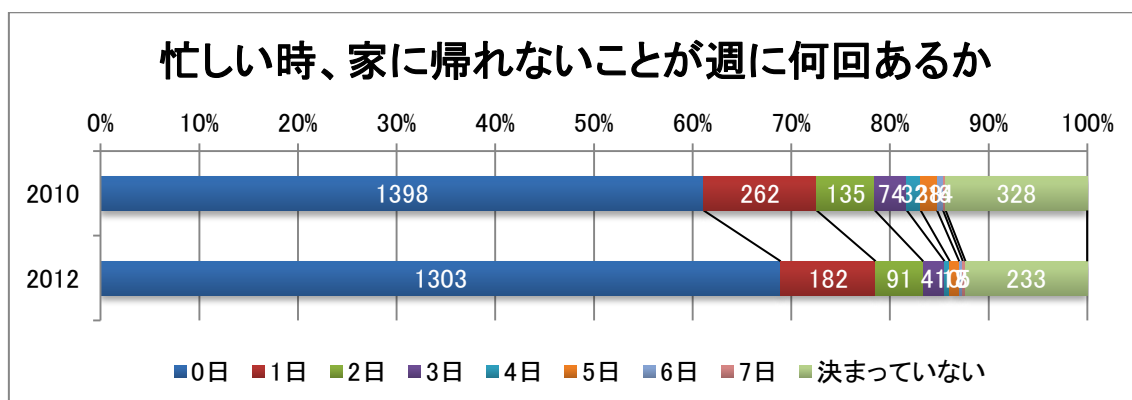


図 10.1.3-6 週あたりの家に帰れない日数比較(2010~2012)

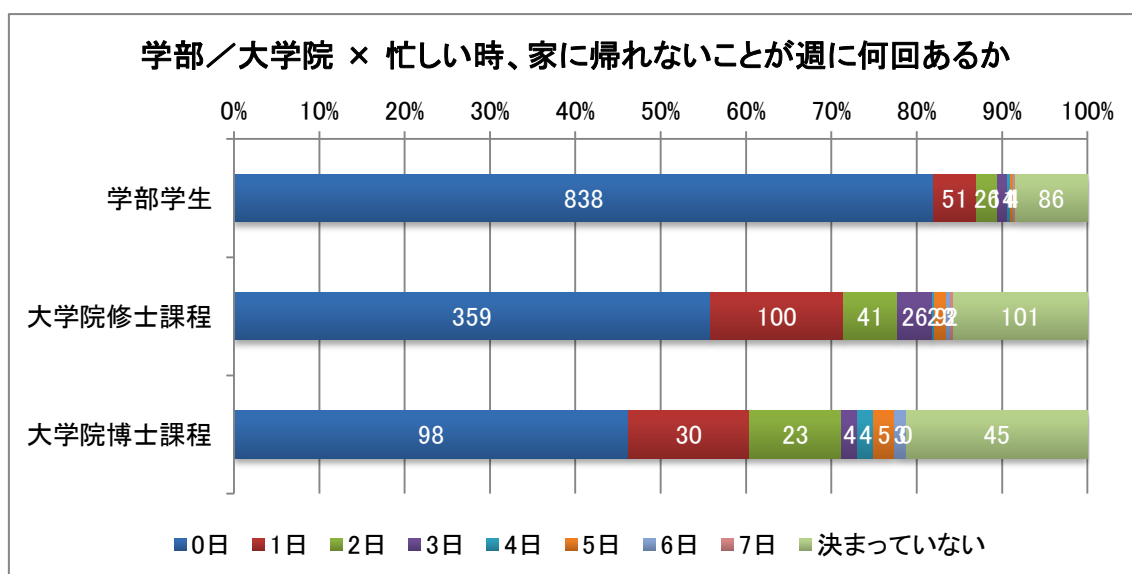


図 10.1.3-7 課程×週あたりの家に帰れない日数(2012)



## 10.1.4 アルバイト

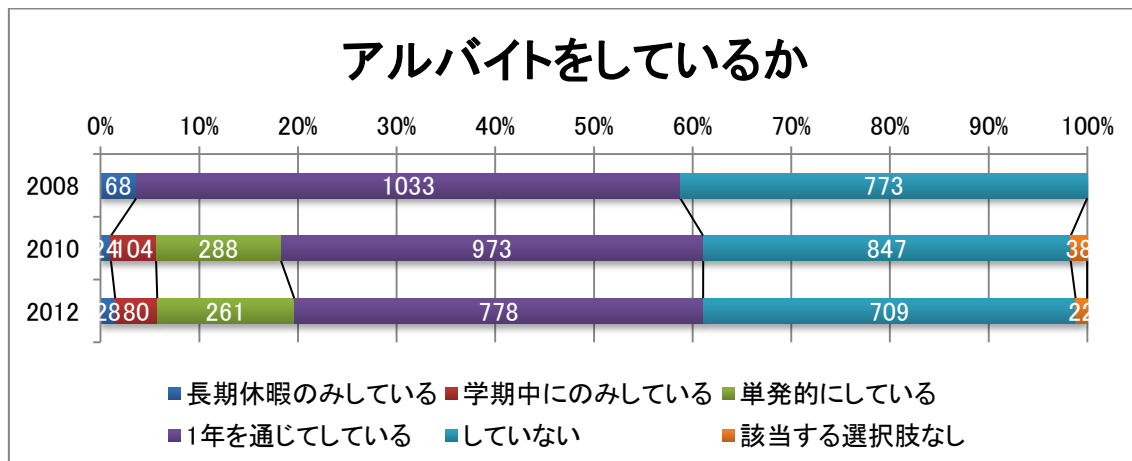


図 10.1.4-1 アルバイトの有無(2008～2012)

※学勢調査 2008 の 1033 名の内訳は「継続的にしている」813 名、「継続的かつ長期休暇中にもアルバイトをしている」220 名。「該当する選択肢なし」の選択肢はなし

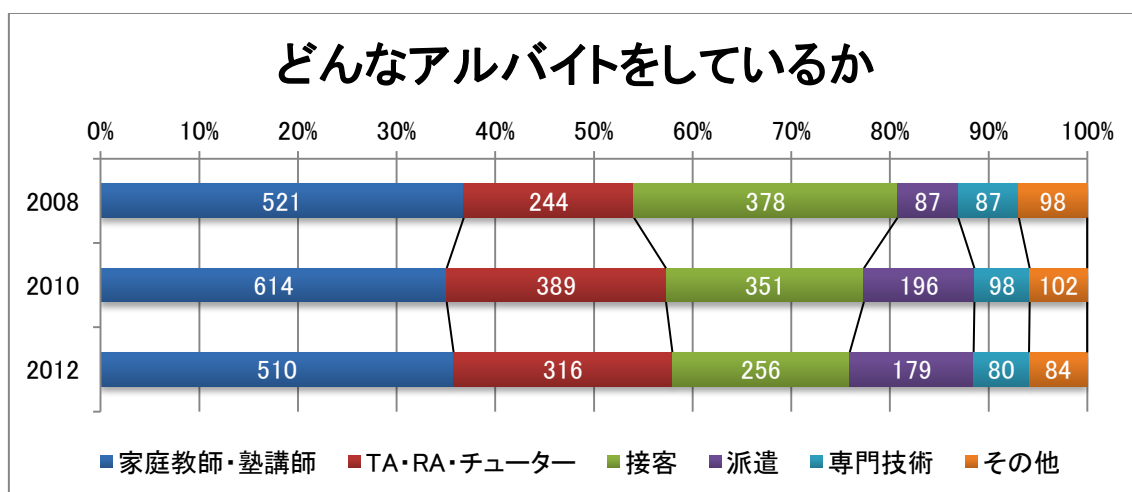


図 10.1.4-2 アルバイトの種類(2008～2012)



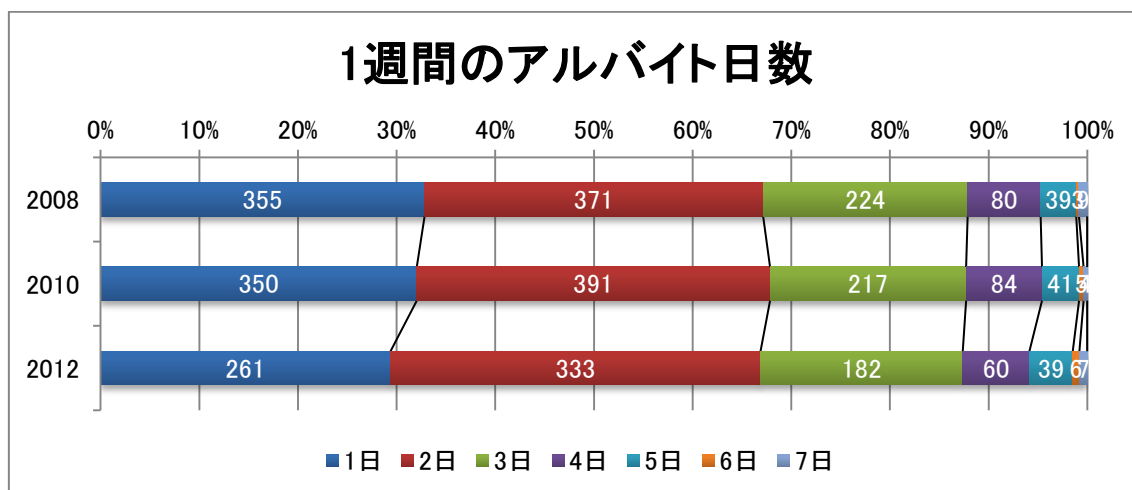


図 10.1.4-3 週あたりのアルバイト日数(2008～2012)

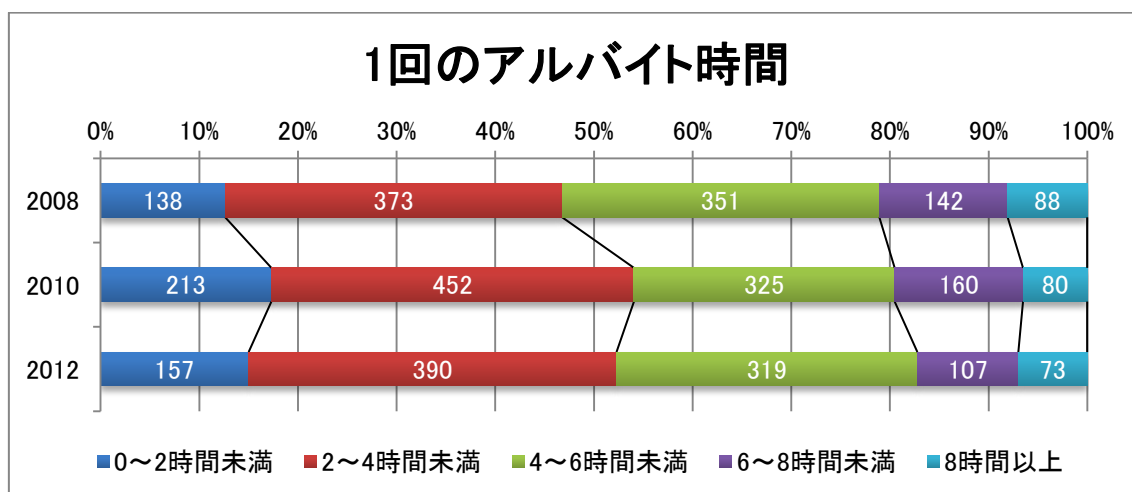


図 10.1.4-4 1回のアルバイト時間(2008～2012)

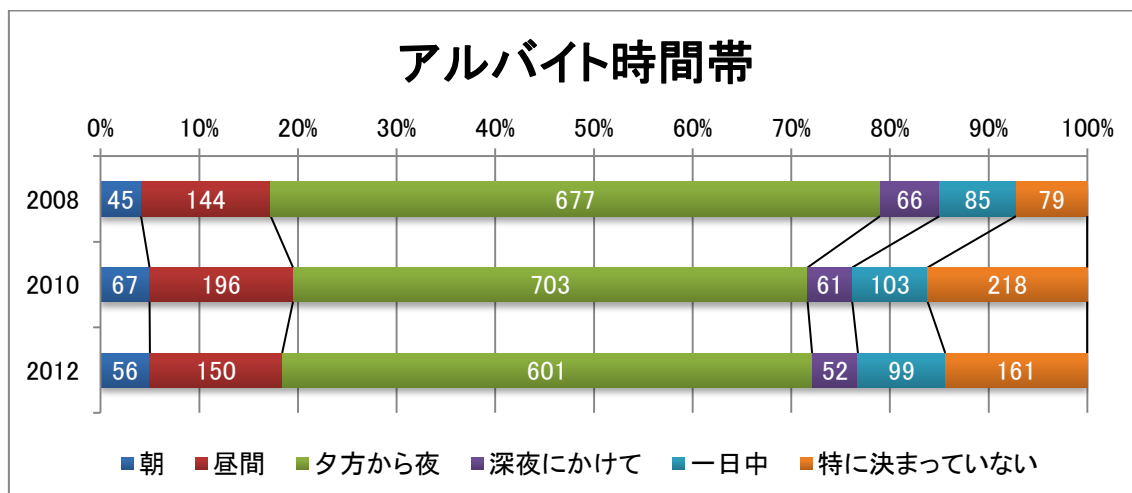


図 10.1.4-5 アルバイトの時間帯(2008～2012)



## 10. 調査関連

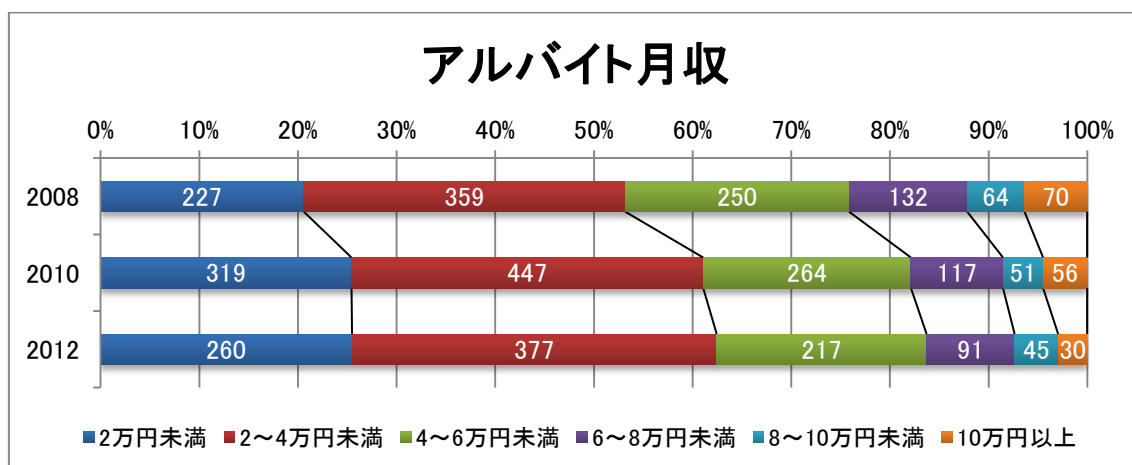


図 10. 1. 4-6 アルバイト月収 (2008～2012)

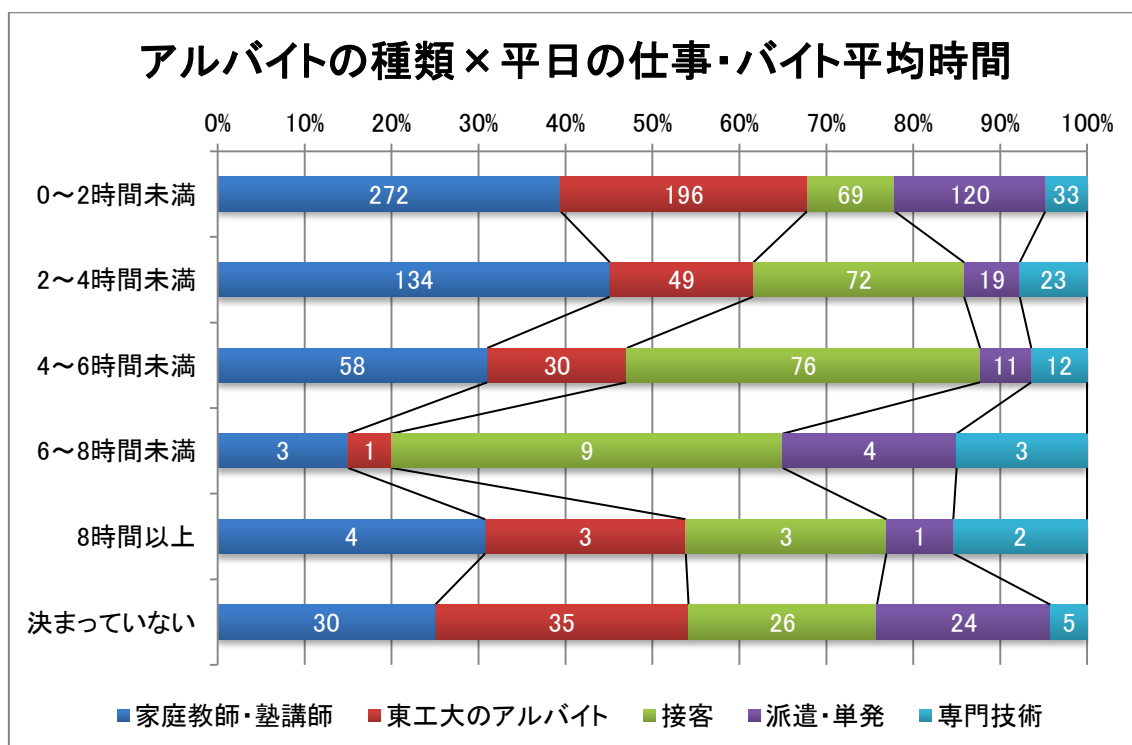


図 10. 1. 4-7 アルバイトの種類×平日の仕事・バイト時間 (2012)



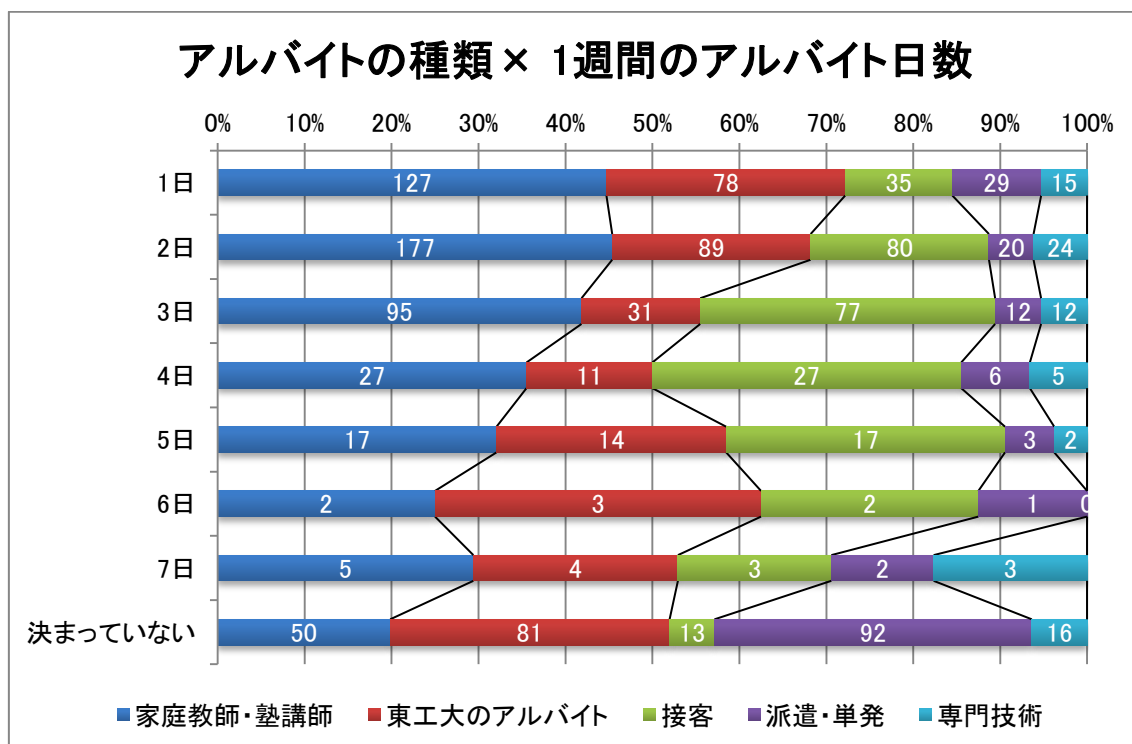


図 10.1.4-8 アルバイトの種類 × 週あたりのアルバイト日数 (2012)

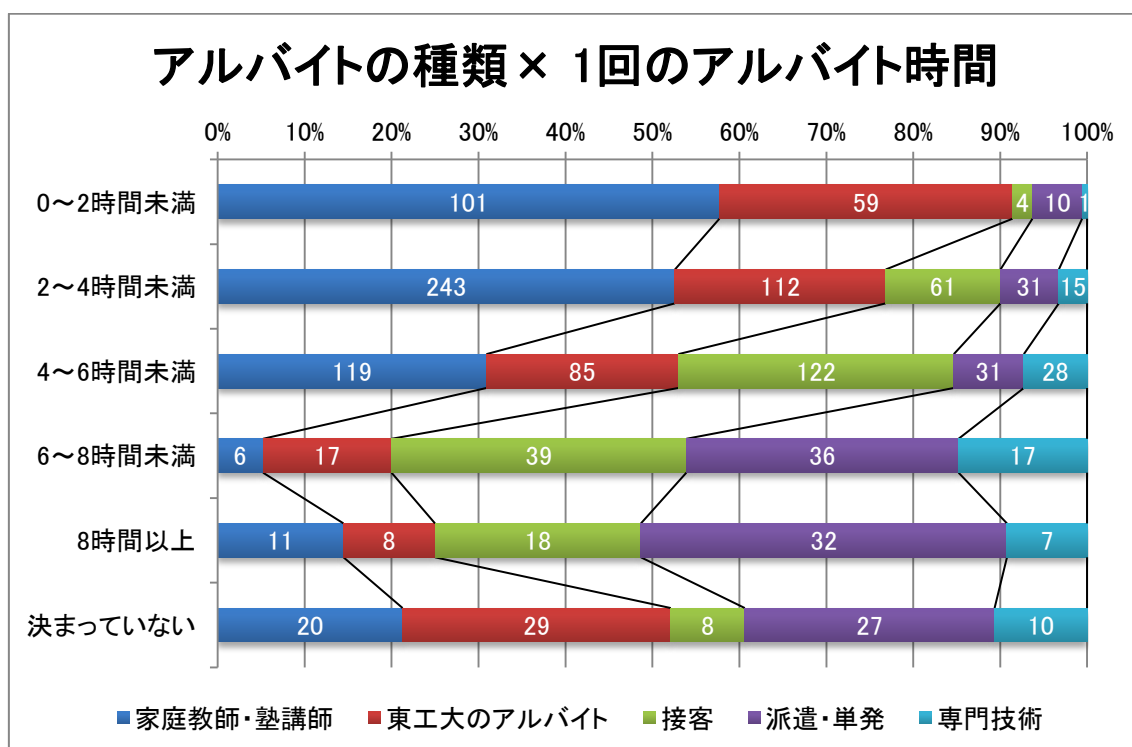


図 10.1.4-9 アルバイトの種類 × 1 回のアルバイト時間 (2012)



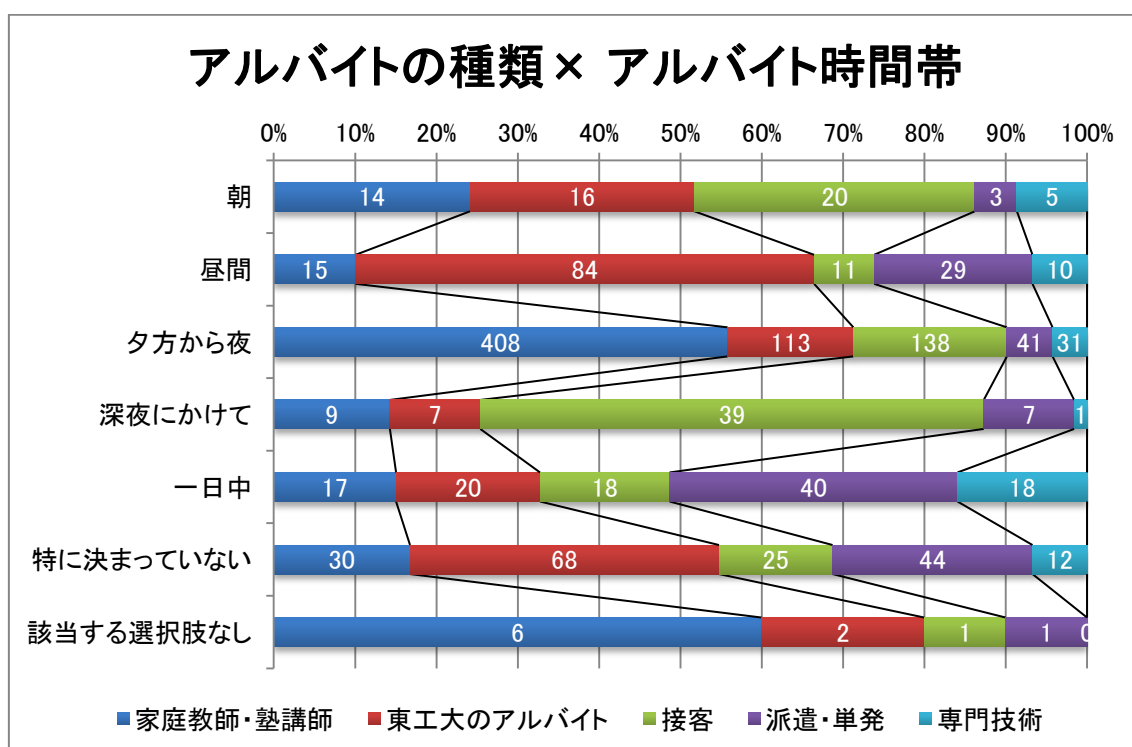


図 10.1.4-10 アルバイトの種類×アルバイト時間帯(2012)

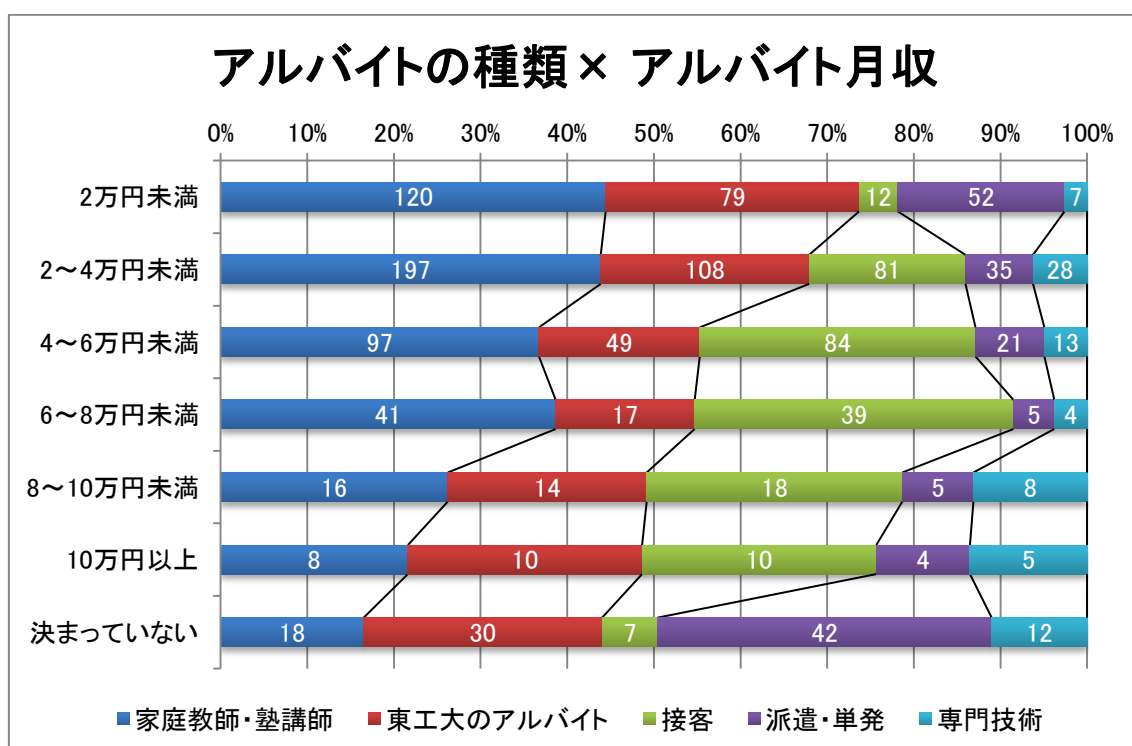


図 10.1.4-11 アルバイトの種類×アルバイト月収(2012)



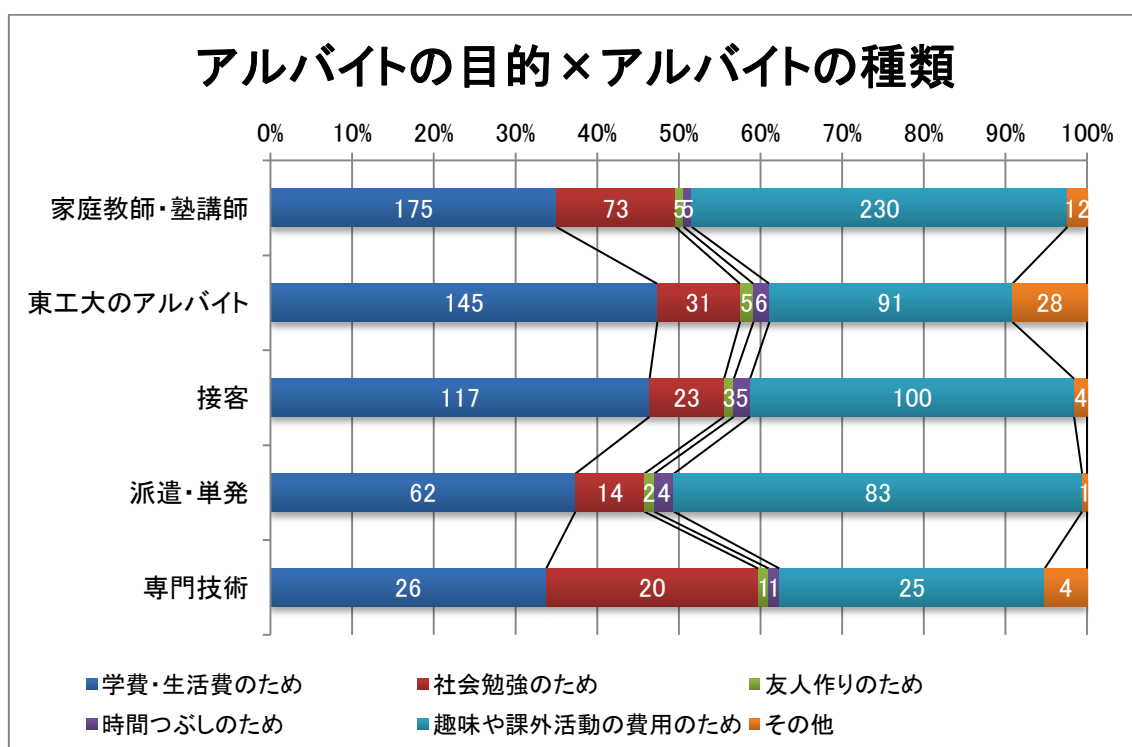


図 10.1.4-12 アルバイトの目的×アルバイトの種類(2012)



## 10.2 学習状況について

### 10.2.1 大学への意識

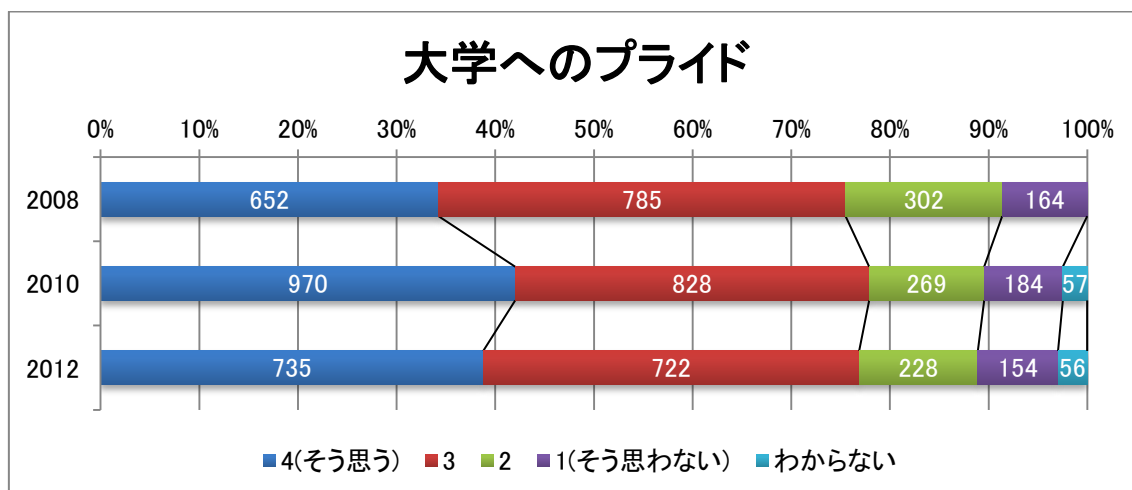


図 10.2.1-1 大学へのプライド(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし

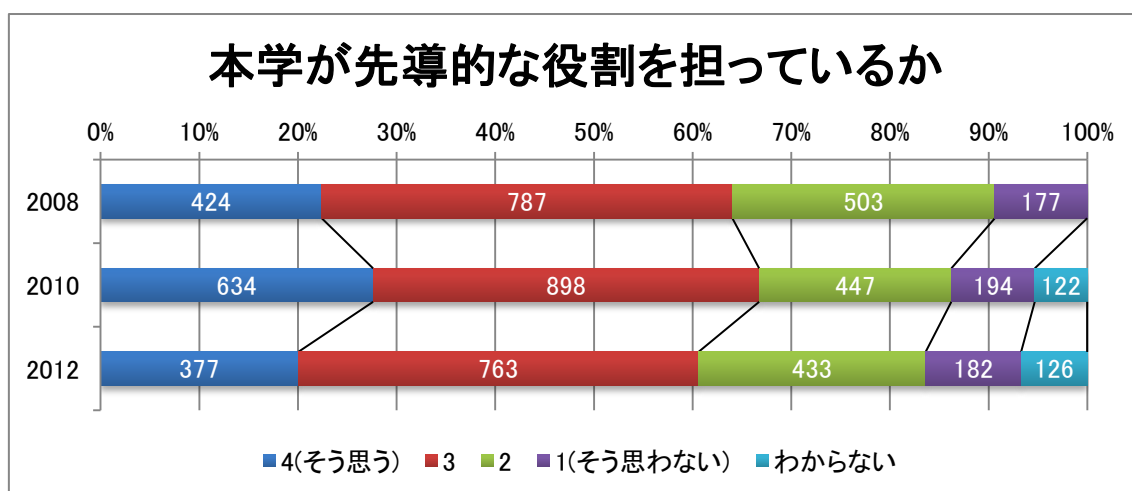


図 10.2.1-2 本学が先導的な役割を担っているか(2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし





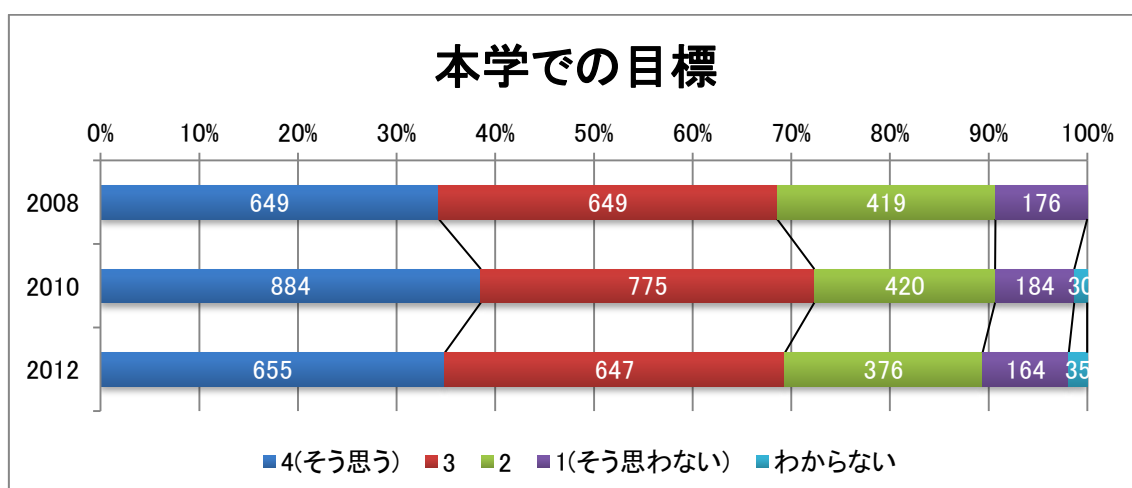


図 10. 2. 1-3 本学での目標 (2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし

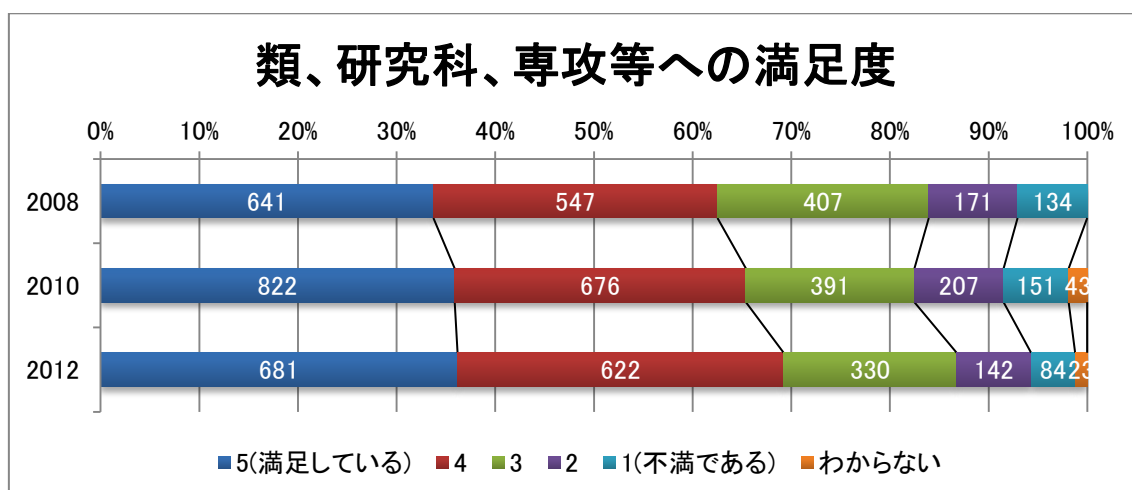


図 10. 2. 1-4 類、学科、専攻等への満足度 (2008～2012)

※学勢調査 2008 では「わからない」の選択肢はなし



## 10. 調査関連

### 10.2.2 講義に対する姿勢

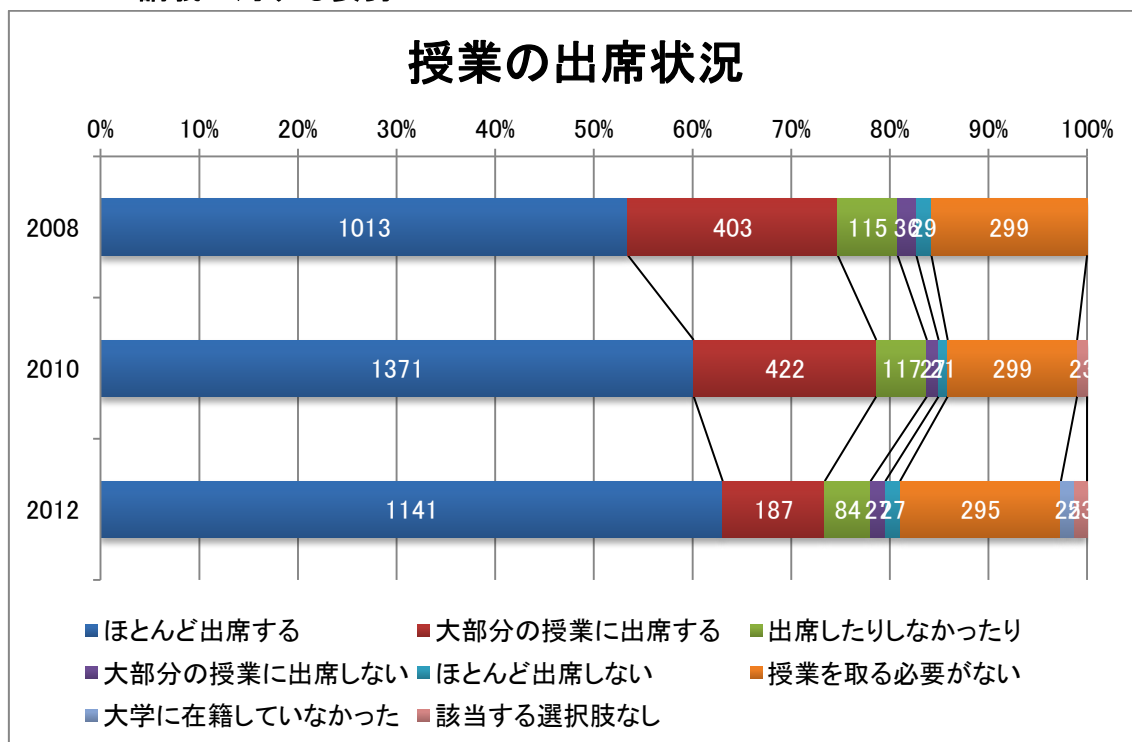


図 10.2.2-1 前期の授業への出席状況 (2008～2012)

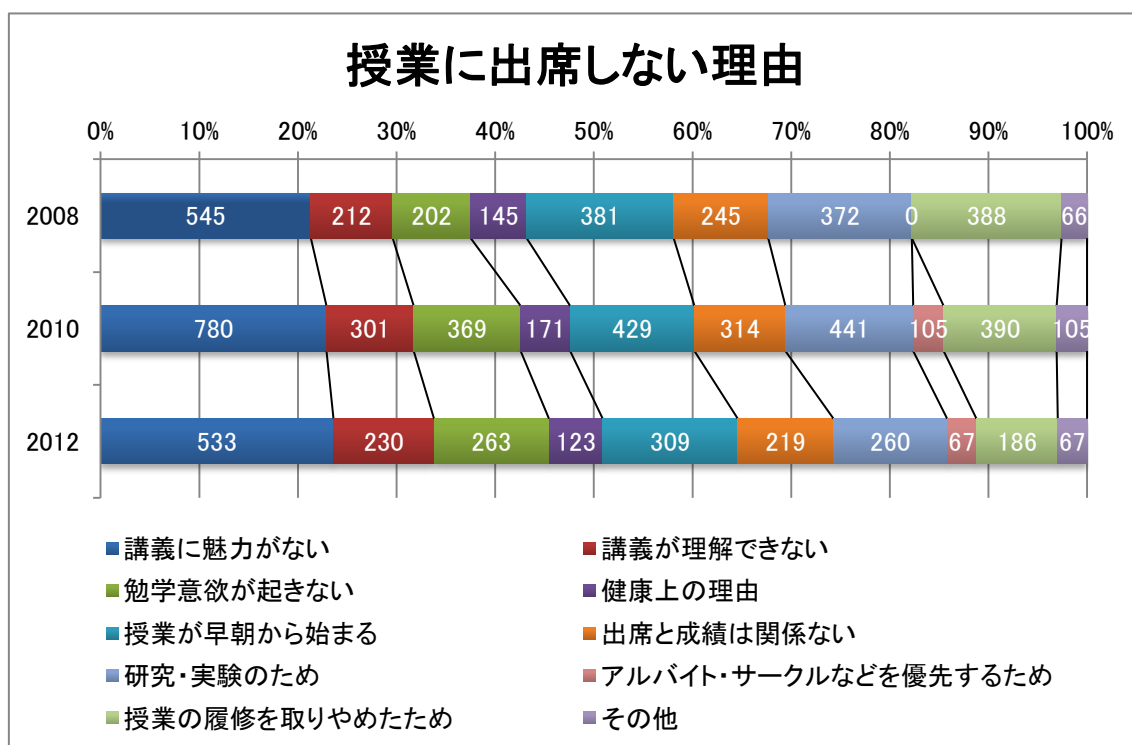


図 10.2.2-2 授業に出席しない理由 (2008～2012)



## 10.2.3 学修時間

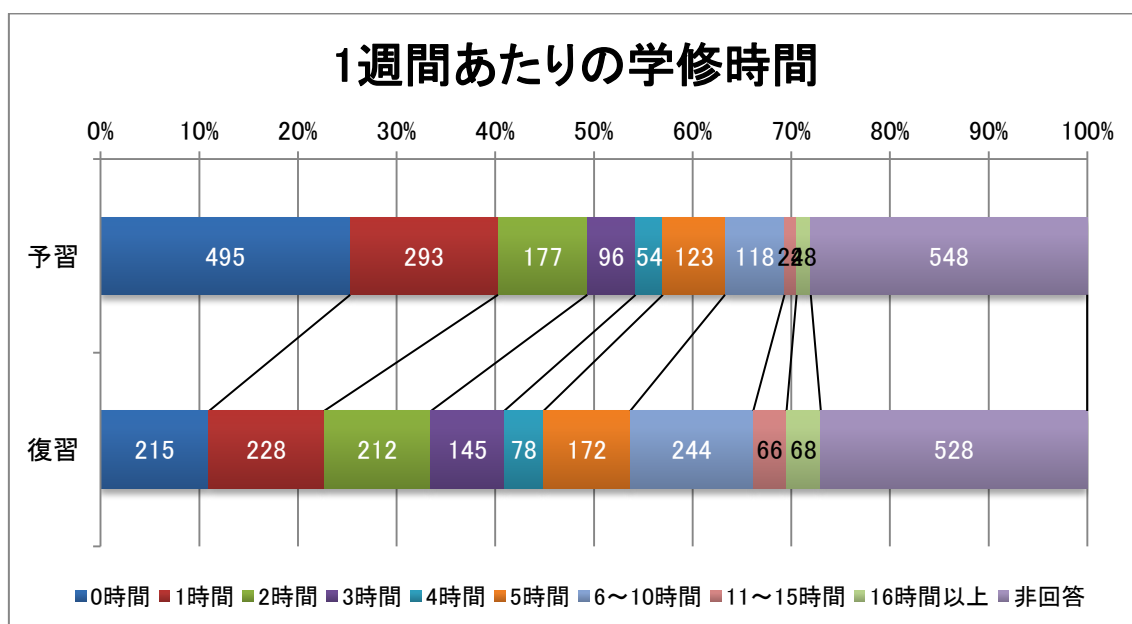
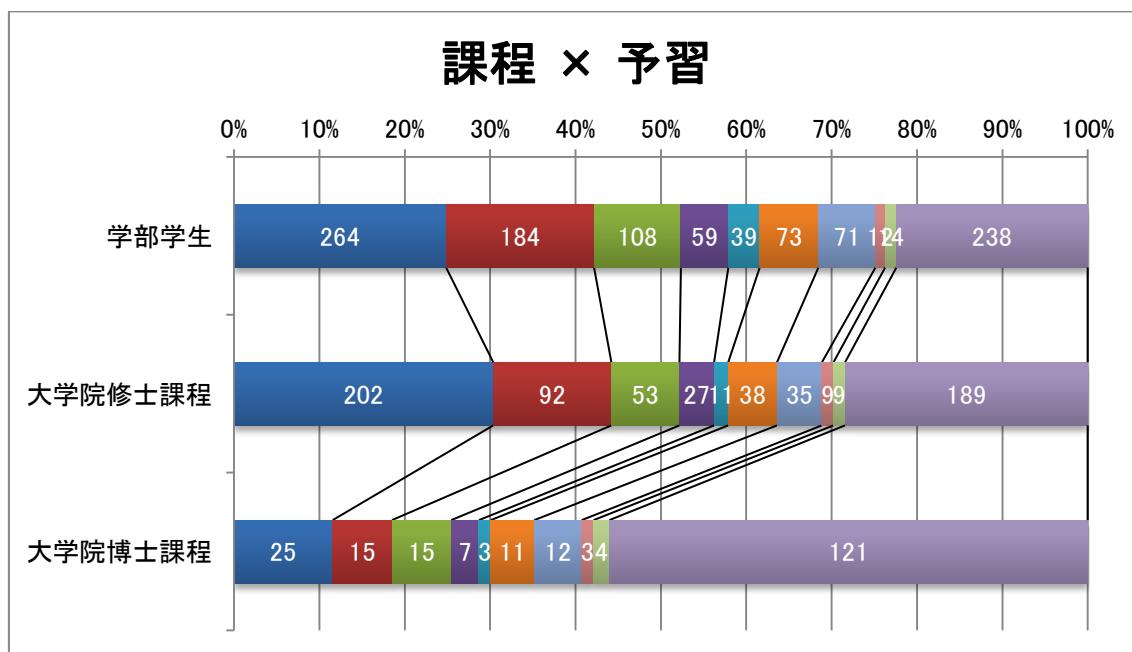


図 10.2.3-1 1週間あたりの予習・復習時間



## 10. 調査関連

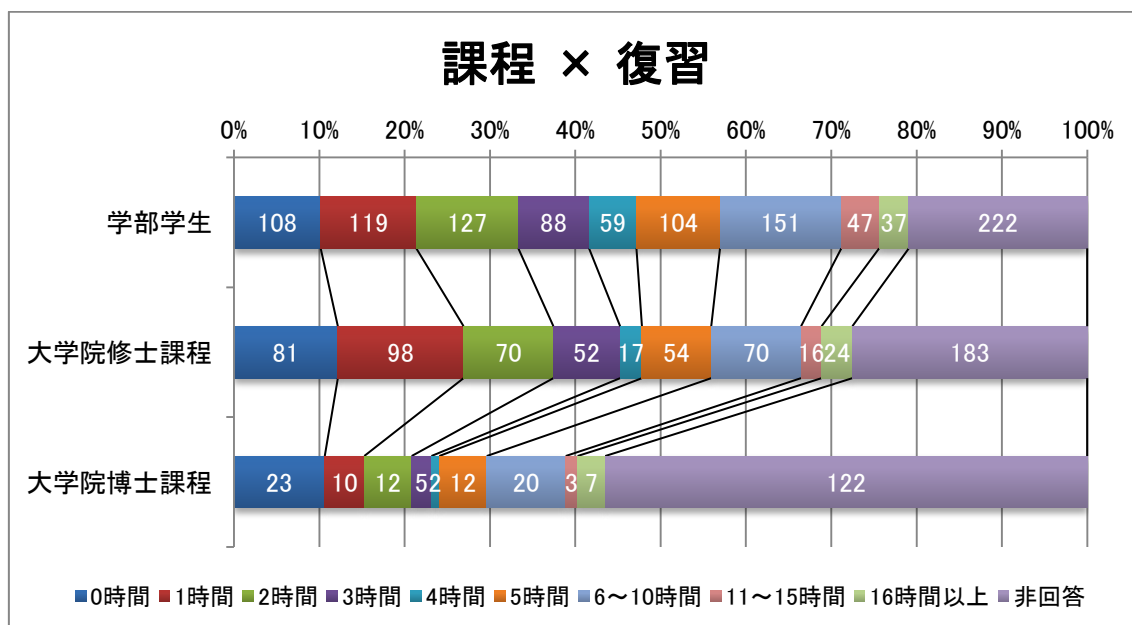


図 10. 2. 3-2 課程×1 週間あたりの予習・復習時間

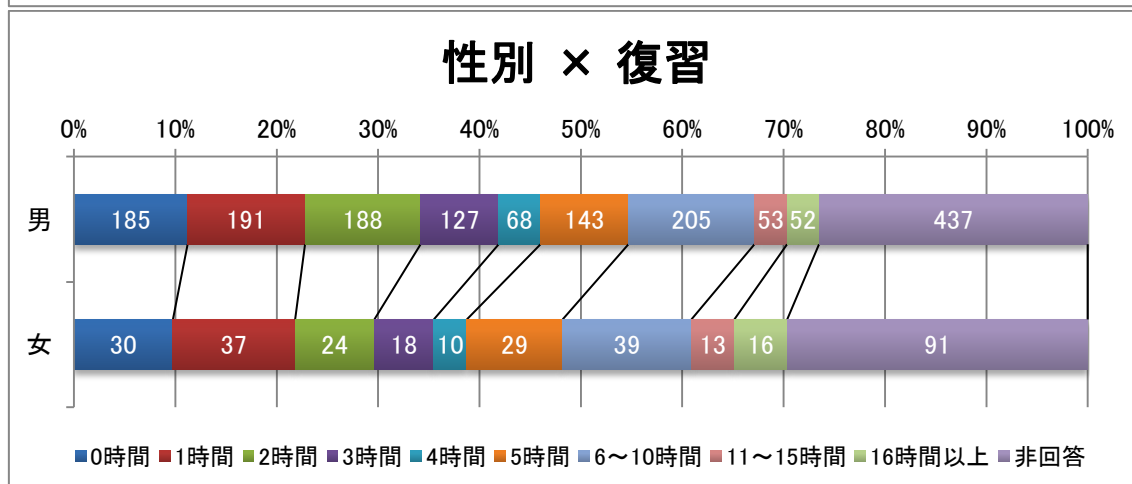
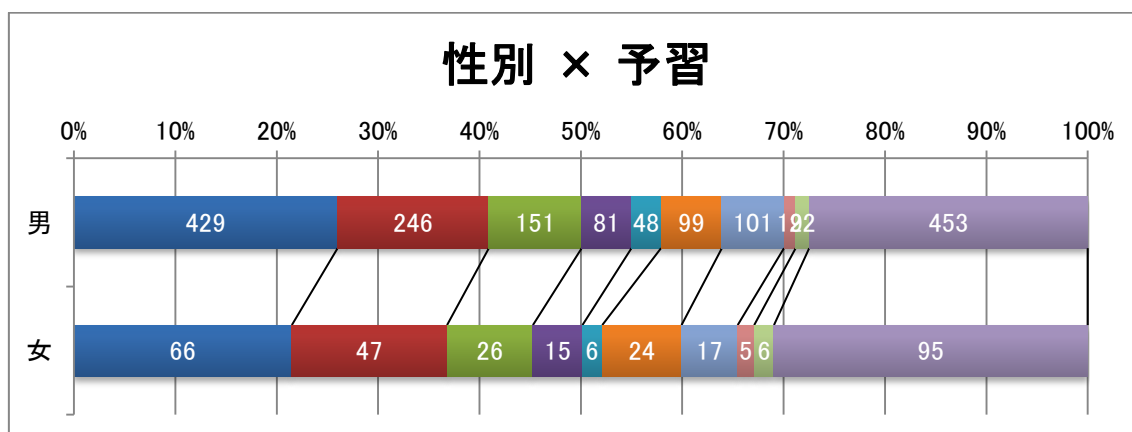


図 10. 2. 3-3 性別×1 週間あたりの予習・復習時間



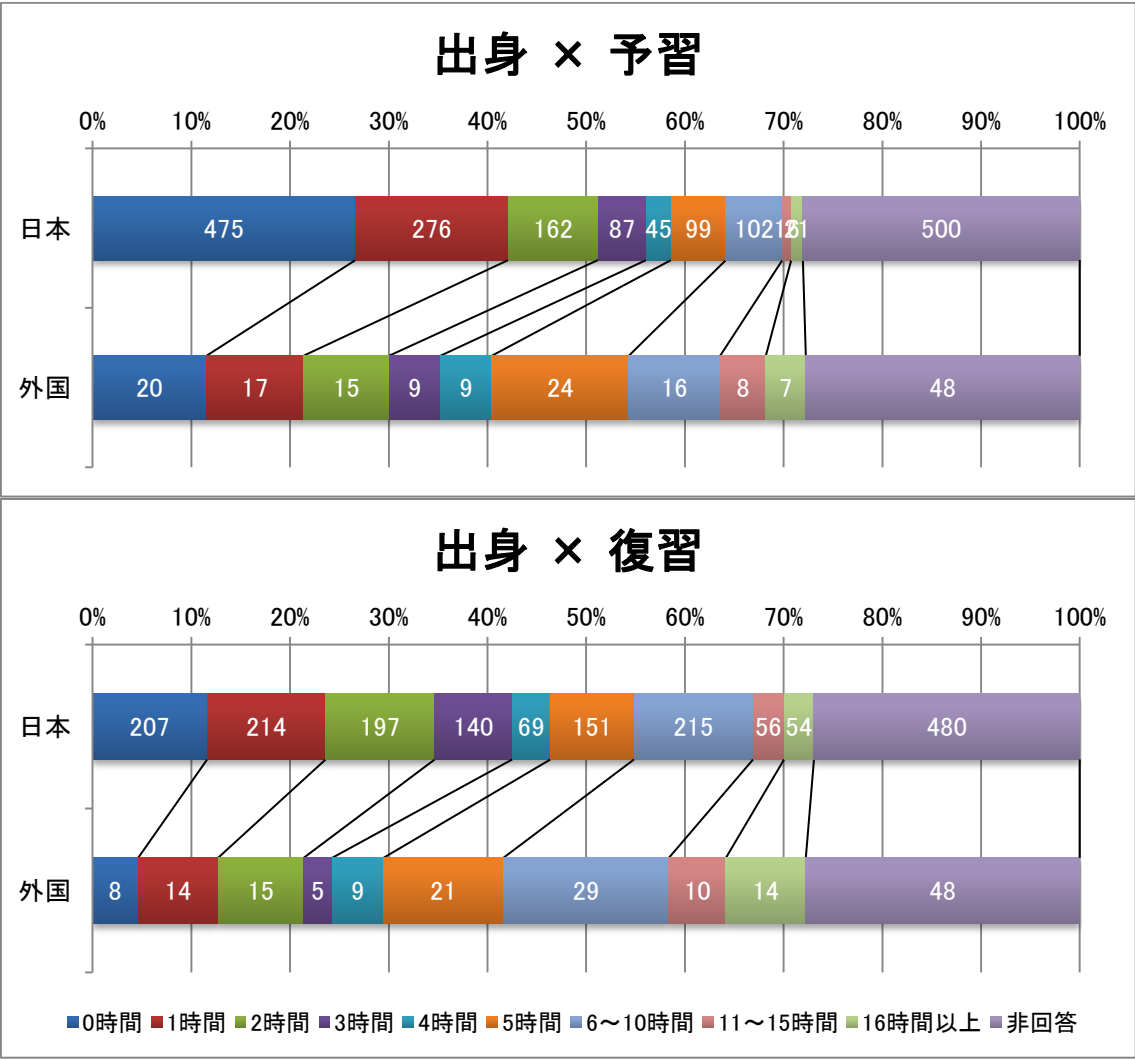


図 10. 2. 3-4 出身×1 週間あたりの予習・復習時間



## 10. 調査関連

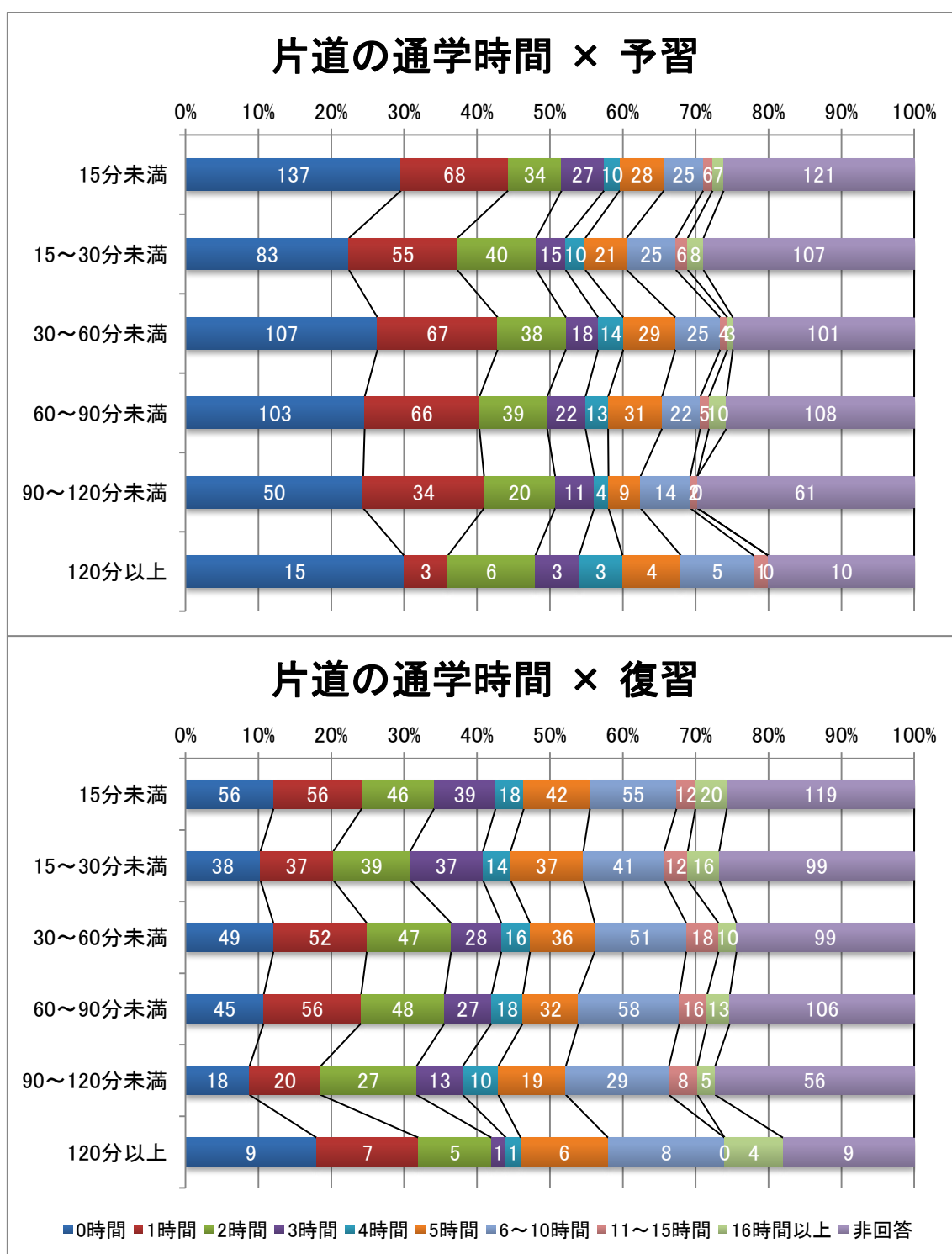


図 10. 2. 3-5 通学時間×1 週間あたりの予習・復習時間



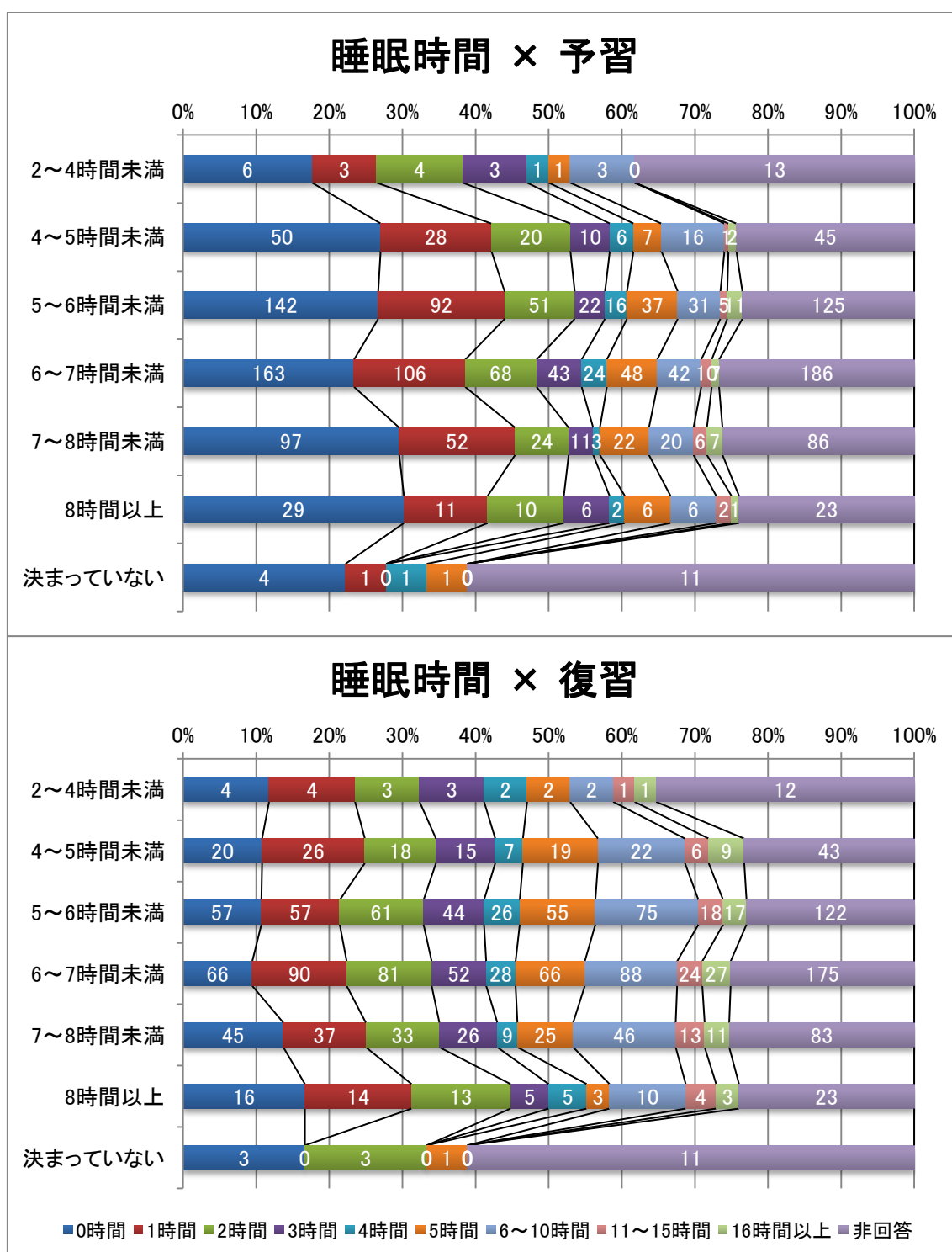


図 10.2.3-6 睡眠時間×1週間あたりの予習・復習時間



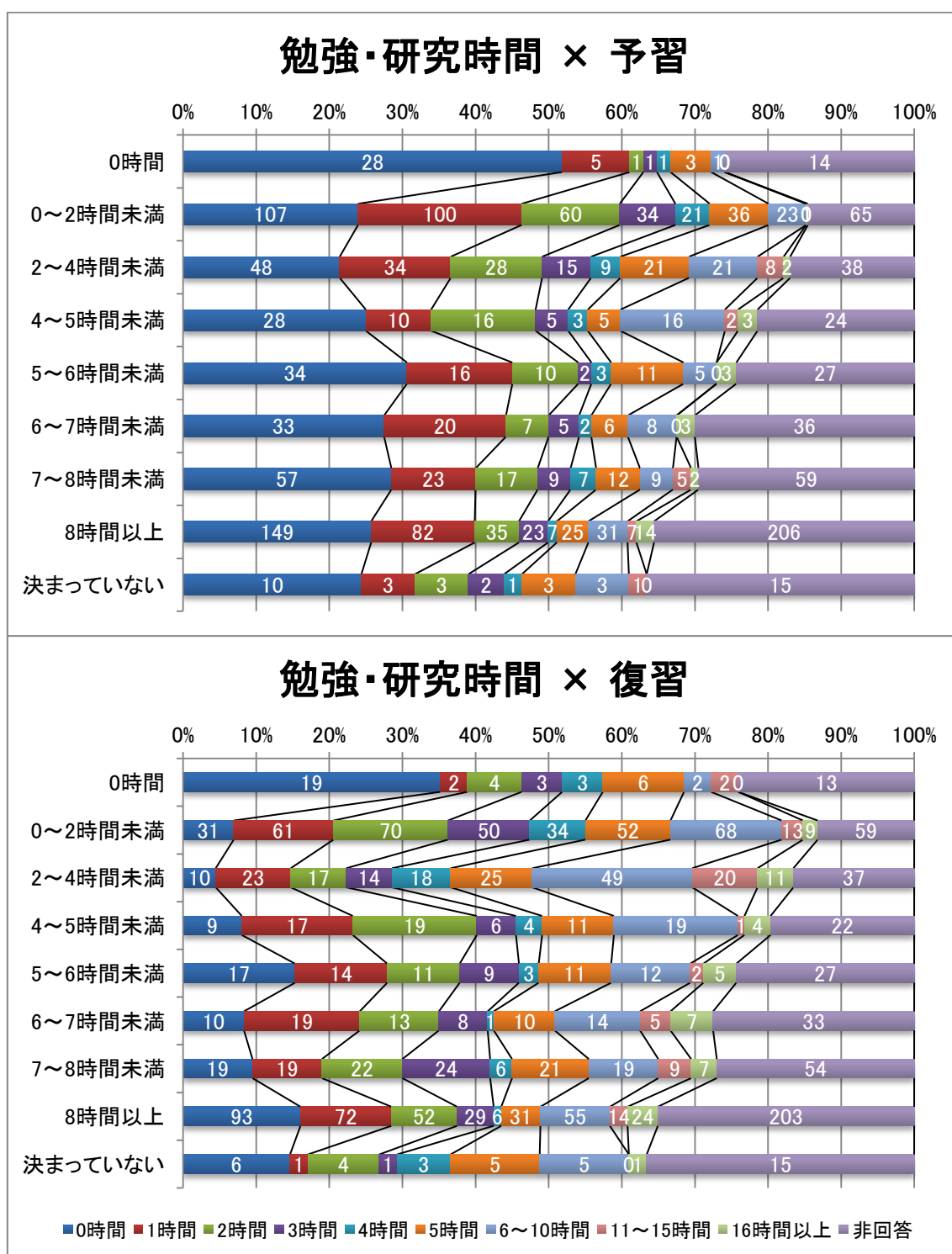


図 10. 2. 3-7 勉強・研究時間×1週間あたりの予習・復習時間





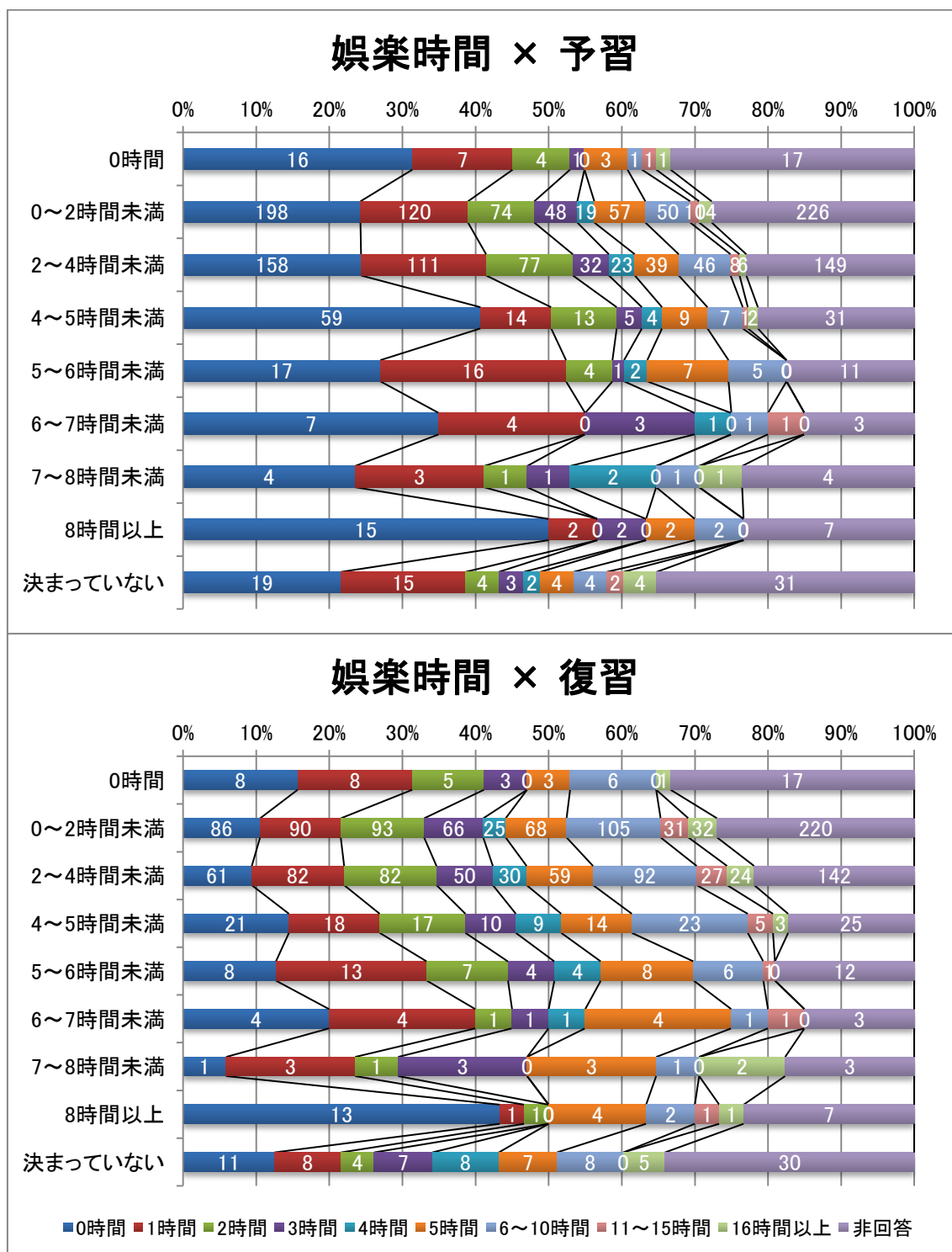


図 10.2.3-8 娯楽時間×1週間あたりの予習・復習時間



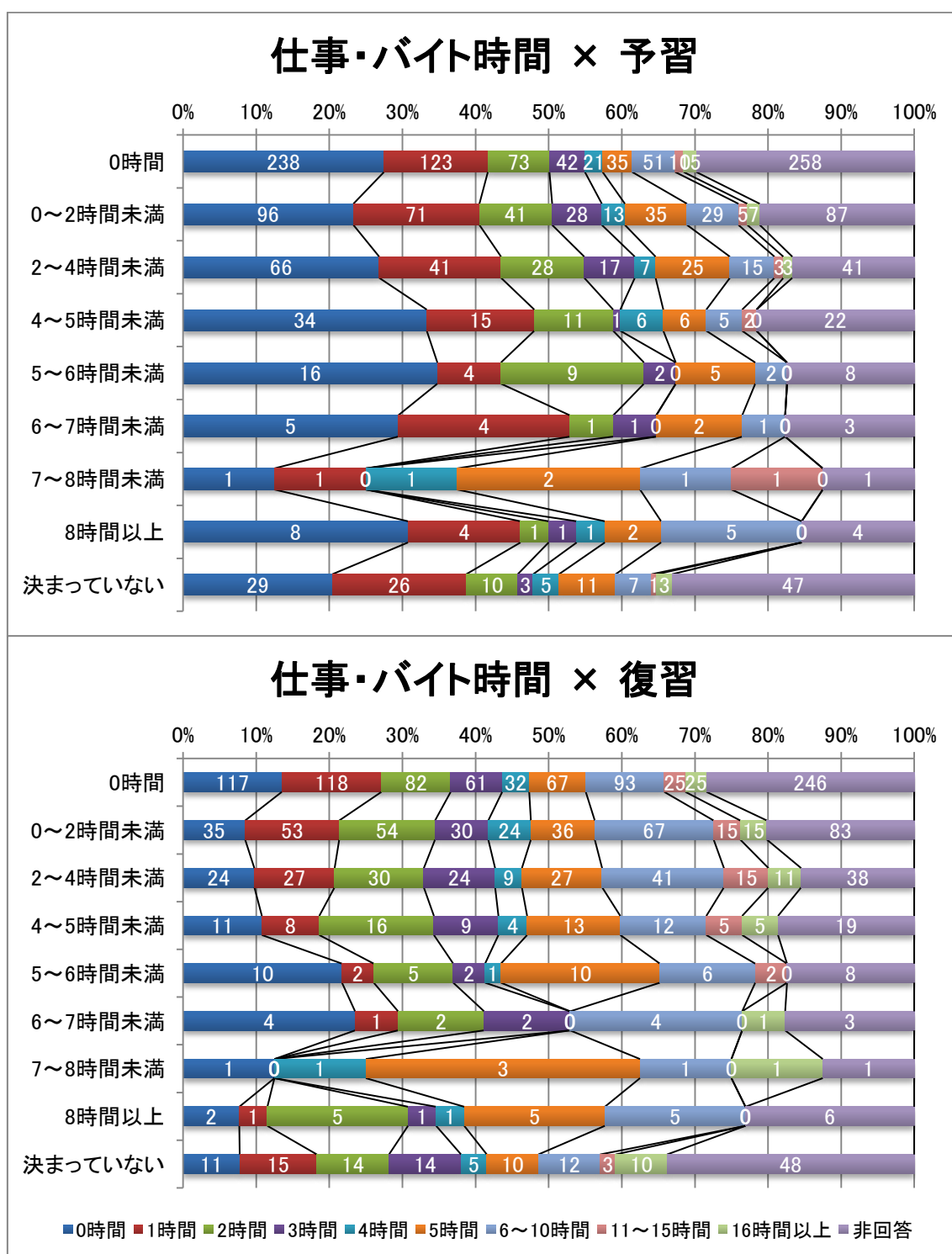


図 10. 2. 3-9 仕事・バイト時間×1週間あたりの予習・復習時間



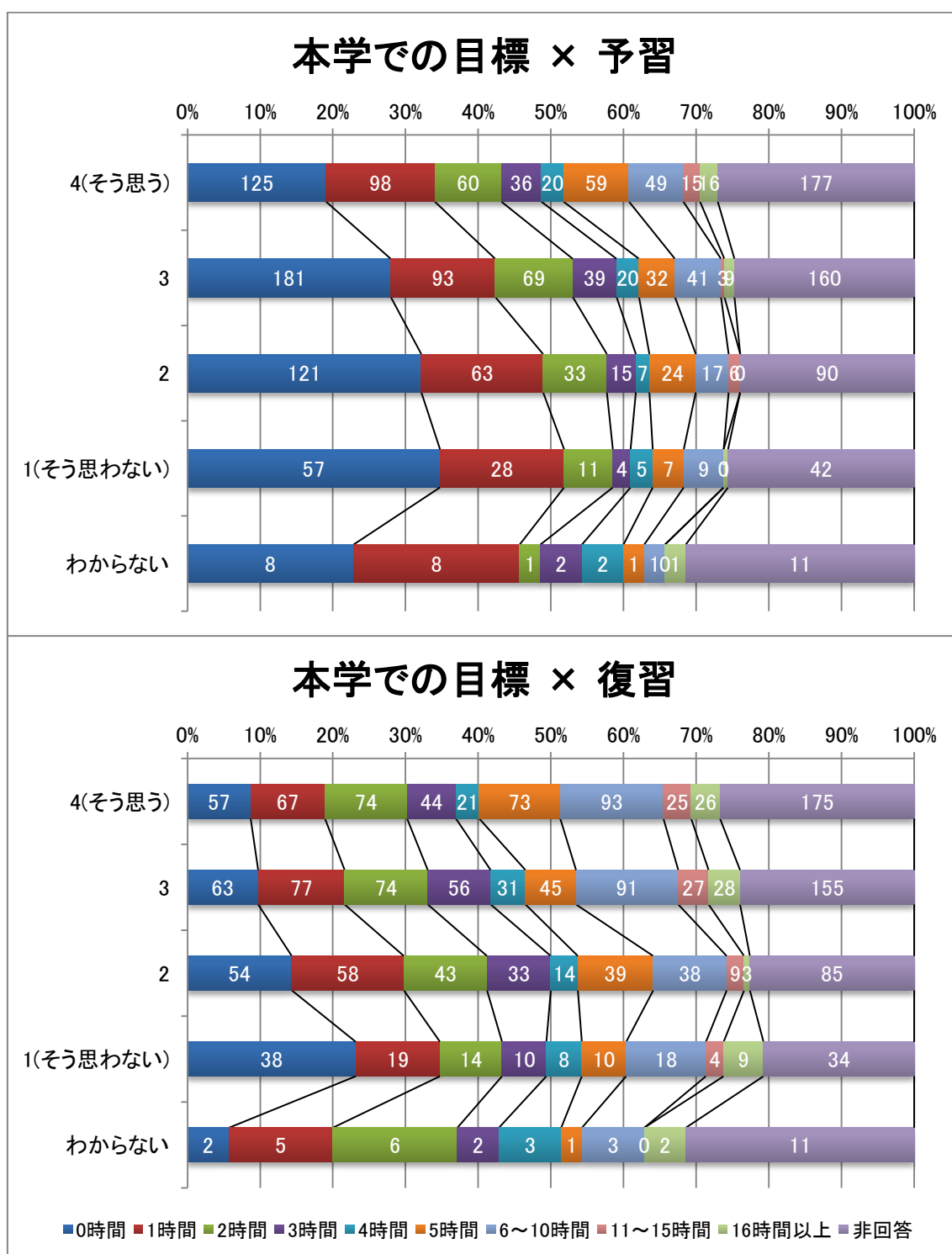


図 10. 2. 3-10 本学での目標×1週間あたりの予習・復習時間



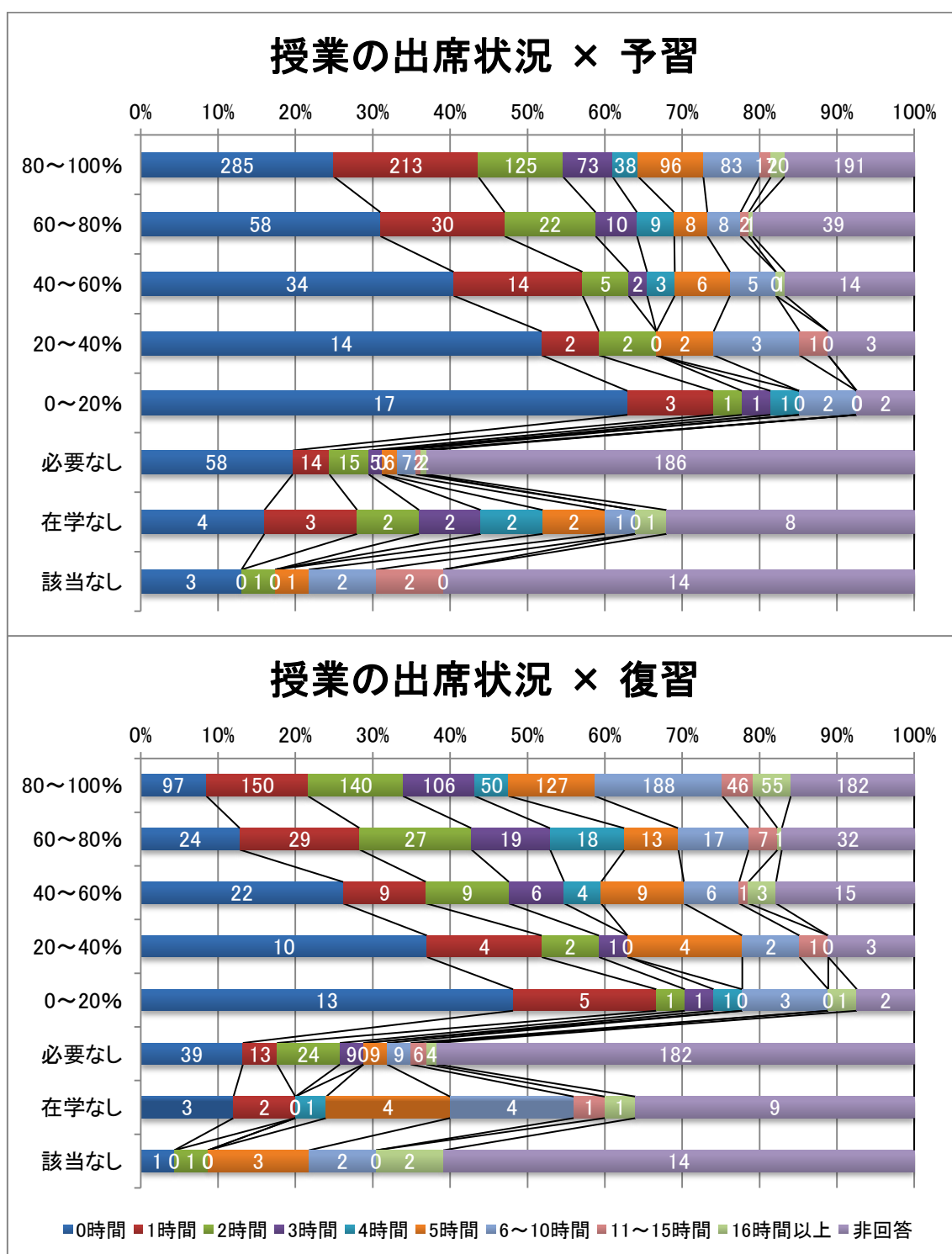


図 10. 2. 3-11 授業の出席状況×1 週間あたりの予習・復習時間



## 10.3 学勢調査に対して

### 10.3.1 回答率について

全体の回答率の変化を、図 10.3.1-1 に示しました。学勢調査 2012 では、前回の調査と比較して回答率が減少しており、学勢調査 2008 と同程度の回答率となりました。

2012 年度の学生総数は「東京工業大学プロフィール 2012-2013」の数値を、2010 年度、2008 年度の数値は学勢調査 2010 の数値を使用しました。

図 10.3.1-2 は、学勢調査 2012 の回答者のうち、過去の学勢調査にも回答した経験がある人数です。学勢調査 2012 の回答者数が学勢調査 2010 より減少した原因の一つとして、新規回答者の減少が挙げられます。

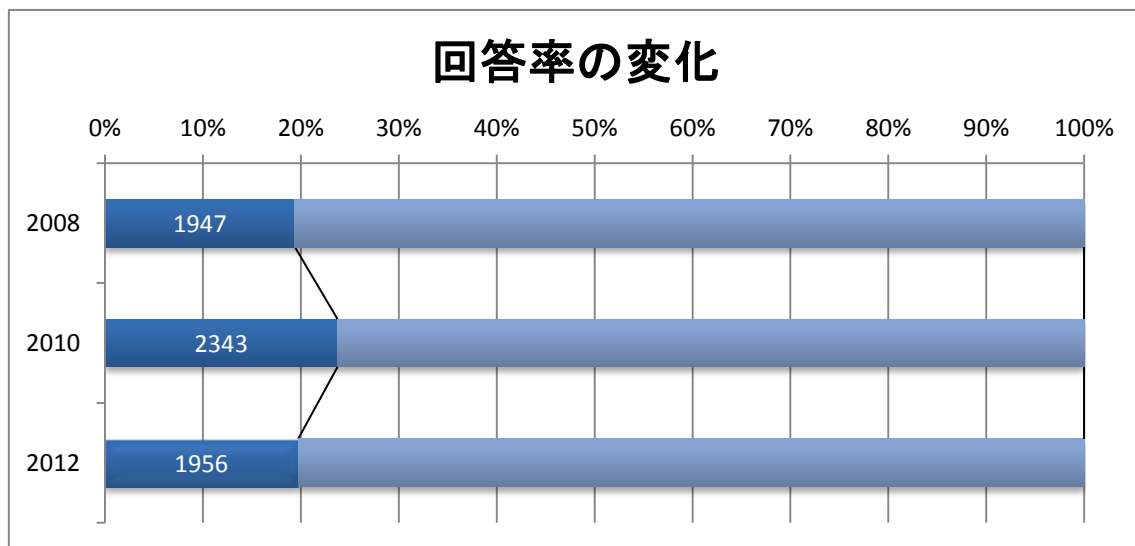


図 10.1.1-1 学勢調査の回答率の変化 (2008～2012)

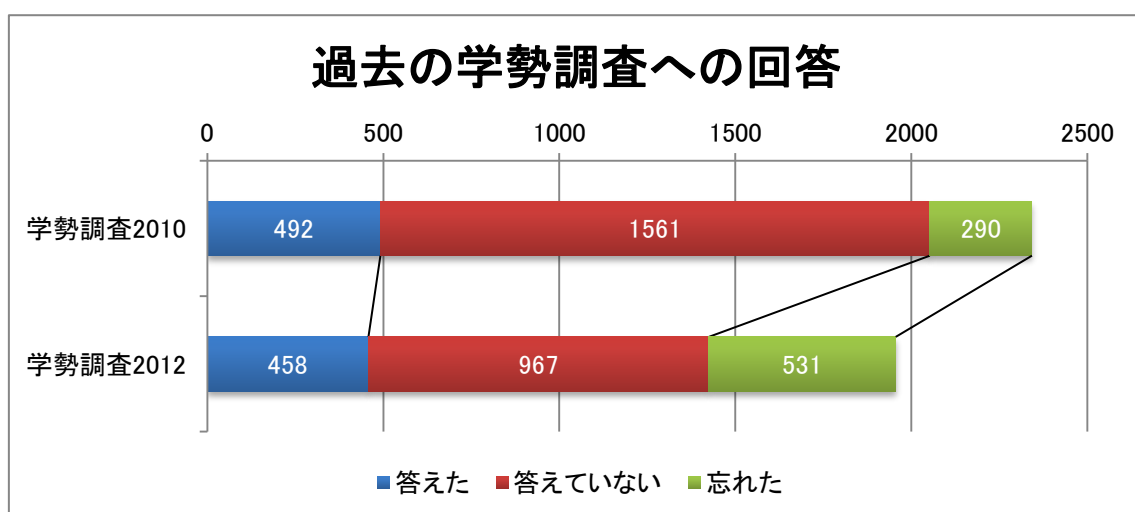


図 10.1.1-2 過去の学勢調査への回答の有無



## 10. 調査関連

### 10.3.2 層ごとの回答率について

図 10.3.2-1 は出身・性別・課程ごとの回答率です。学勢調査 2012 の回答者層は学勢調査 2008 と近くなっています。学勢調査 2012 では、学勢調査 2010 で増加した博士課程の学生の回答率が再び低下してしまいました。

一方、大多数を占める日本出身の学部学生の回答率はあまり変化していません。次回の学勢調査の広報では、もっと幅広い層からの回答を得られるような工夫が必要です。

| 2008 | 日本/男性 | 日本/女性 | 外国/男性 | 外国/女性 | 合計  |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 学部   | 20%   | 31%   | 12%   | 12%   | 21% |
| 修士課程 | 20%   | 21%   | 16%   | 14%   | 20% |
| 博士課程 | 15%   | 17%   | 10%   | 11%   | 14% |
| 合計   | 20%   | 25%   | 13%   | 13%   | 19% |

| 2010 | 日本/男性 | 日本/女性 | 外国/男性 | 外国/女性 | 合計  |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 学部   | 22%   | 31%   | 25%   | 22%   | 23% |
| 修士課程 | 24%   | 32%   | 18%   | 37%   | 25% |
| 博士課程 | 19%   | 22%   | 37%   | 40%   | 24% |
| 合計   | 22%   | 30%   | 26%   | 34%   | 24% |

| 2012 | 日本/男性 | 日本/女性 | 外国/男性 | 外国/女性 | 合計  |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 学部   | 22%   | 28%   | 16%   | 15%   | 22% |
| 修士課程 | 18%   | 23%   | 18%   | 20%   | 19% |
| 博士課程 | 14%   | 19%   | 11%   | 16%   | 14% |
| 合計   | 20%   | 25%   | 14%   | 17%   | 20% |

図 10.3.2-1 学生の層ごとの回答率

※層別の回答率については、赤が最多、青が最少です。

合計の回答率については、緑が最多です。



### 10.3.3 回答者の傾向の変化

図 10.3.3-1 は学年ごとの回答数の変化を示したグラフです。ここでも、学勢調査 2012 は学勢調査 2008 とほぼ同じ割合を示しており、博士課程の学生の回答率が低下しています。

逆に、学部 1 年生の回答数は過去最多となっています。

図 10.3.3-2 は主な活動場所ごとの回答者数の変化です。このグラフに関しては学勢調査 2012 と学勢調査 2008 で差異があり、学勢調査 2012 では大岡山地区以外からの回答者も増加しています。

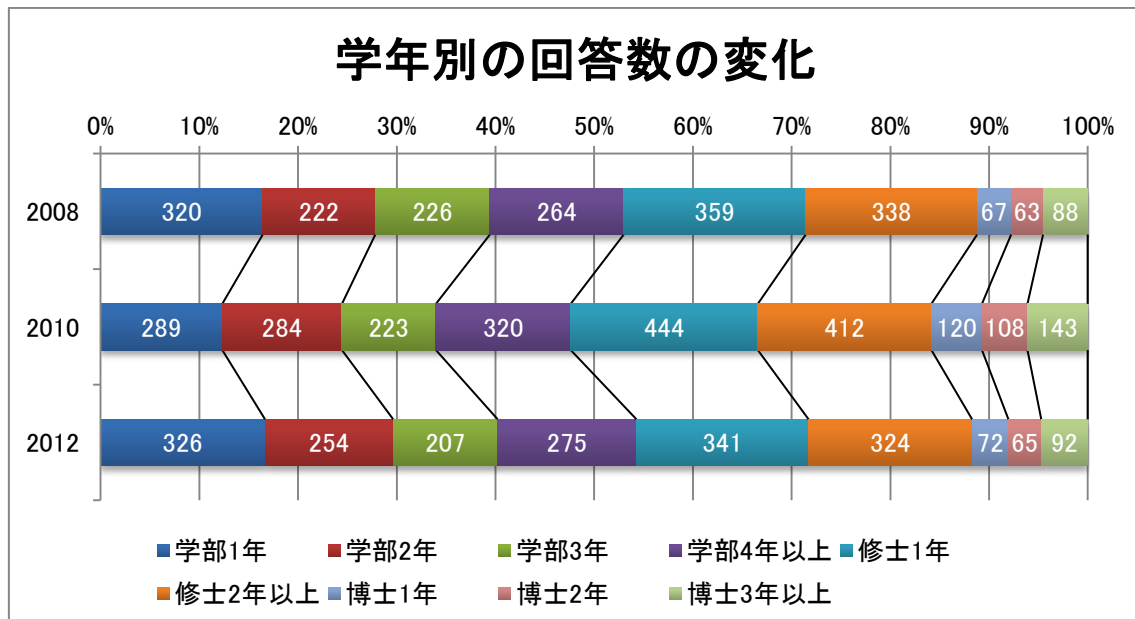


図 10.3.3-1 学年ごとの回答数の変化 (2008～2012)

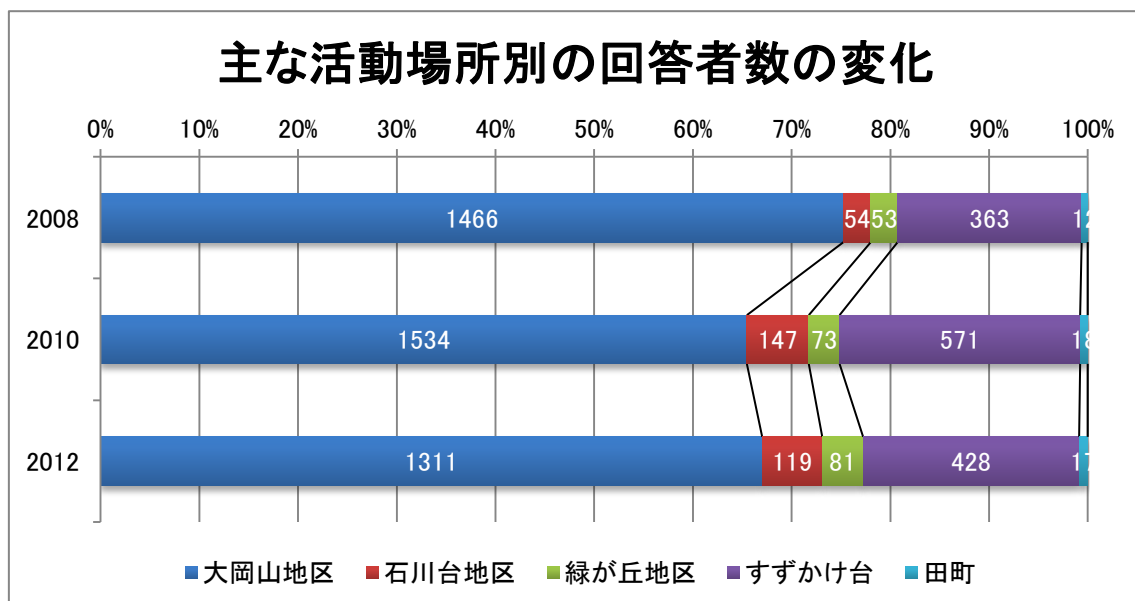


図 10.3.3-2 主な活動場所別の回答者数の変化 (2008～2012)



## 10. 調査関連

図 10.3.3-3 と図 10.3.3-4 は回答場所を示すグラフであり、課程が上がるにつれて、学内で回答する学生が増加していくことが分かります。

また、博士課程の回答者数が減少したため、アンケートを学内で回答している人数も減少しました。

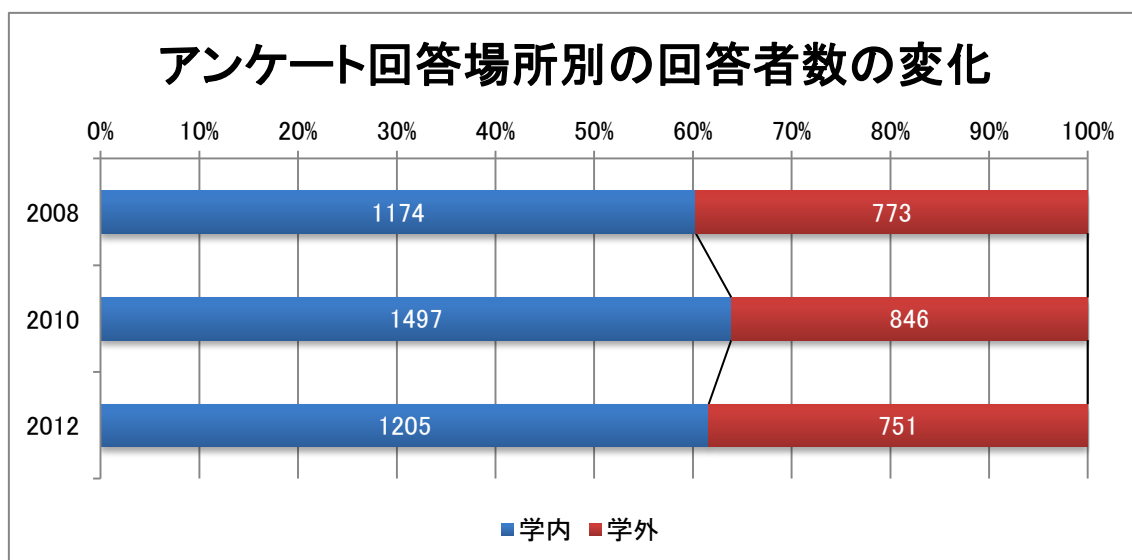


図 10. 3. 3-3 回答場所別の回答者数の変化 (2008～2012)

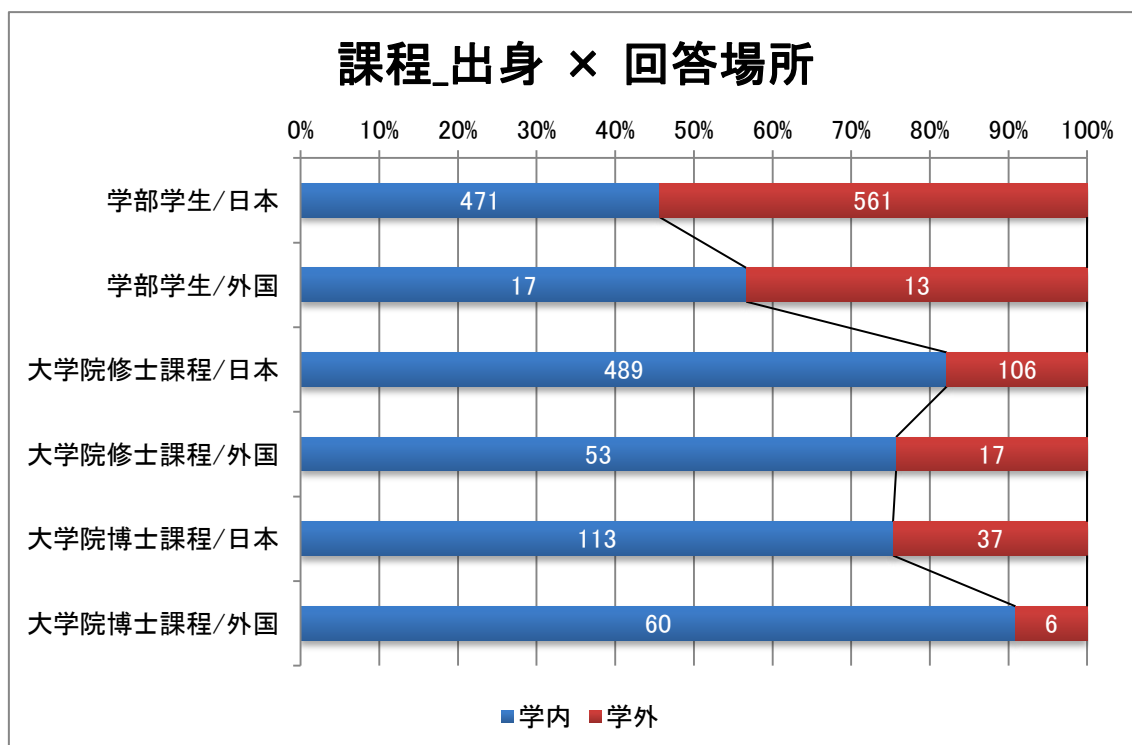


図 10. 3. 3-4 課程・出身×回答場所 (2012)





図 10.3.3-5 は、課程・出身校・国籍で作成したクロスデータです。修士課程、博士課程と進むにつれて東工大出身の学生が減少し、他大学・高専などが出身の学生が増加しています。

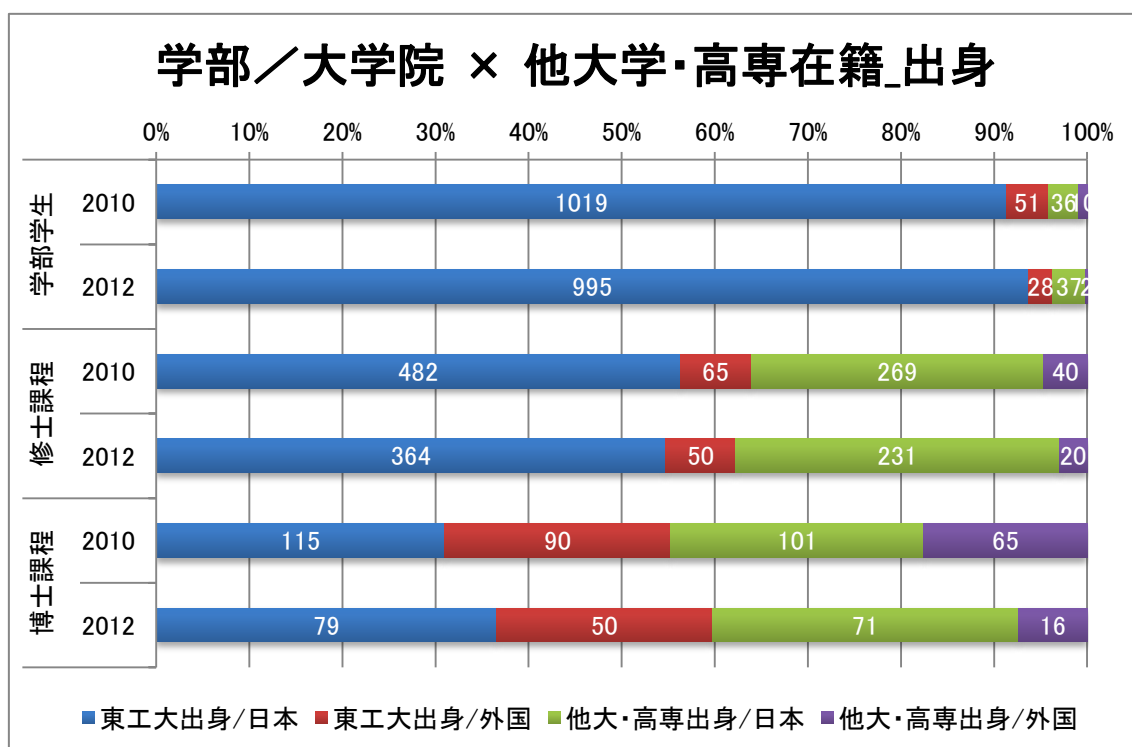


図 10.3.3-5 課程×出身校・国籍別の回答数（2010、2012）

#### 10.3.4 学勢調査 2012 に対する意見

学勢調査の最後の設問では、学勢調査そのものに対する意見を募集しています。

今回の調査で得られた意見を分類し、以下に示します。

- 学勢調査の取り組みをこのまま続けてほしいという意見が 32 件
- 質問が多い・長いという意見が 36 件
- 設問が良くないという意見が 21 件
- 学外から回答するためのログイン画面に関する意見が 13 件
- 学勢調査の広報に関する意見が 8 件
- 調査に対する不安が 4 件
- 毎年実施して欲しいという意見が 4 件

このように、様々な意見が集まりました。この意見は次回のスタッフに引き継ぎ、今後の学勢調査に活かしていきたいと思います。

